

# 教 育 課 程

(令和7年度 69期生)

学籍番号

氏 名



新潟県厚生農業組合連合会

中央看護専門学校

## 目 次

教育理念	1
教育目的	1
教育目標	1
主要概念の定義	2
教育課程の構造図	3
分野・領域の概要	4
教育課程進度表	7
学習内容（臨地実習は除く）	
I 1年次配当科目	9
II 2年次配当科目	53
III 3年次配当科目	89

## 教育理念

新潟県厚生農業協同組合連合会は、「信頼と協同で築く地域の健康」を方針とし、地域の皆様の健康と心の支えとなる病院でありたいという願いをもち、事業を展開している。

看護は、生命の尊厳と人間関係を基盤とし、その人らしい生活を支え、最良の健康状態になるよう、科学的根拠に基づく専門的知識・技術を用いて実践される。

本校は、新潟県厚生農業協同組合連合会の医療事業の中核を担う長岡中央総合病院に隣接しており、地域密着型の高度専門医療から在宅医療、健診活動を幅広く教育できる環境にある。

地域の医療ニーズに応え、関わるすべての人々に関心をもち、思いやりのある看護師を必要とする。

そして、新潟県厚生農業協同組合連合会の責務である広く、保健・医療・福祉に対応でき、地域医療の担い手となる看護師を育成する。

### 新潟県厚生農業協同組合連合会中央看護専門学校 校章の由来



当校の歴史は古く、開校は昭和27年である。以来多くの看護師を育成してきた。昭和39年に当時の教員たちによって校章は考案された。

ひまわりは、暖かく降りそそぐ太陽の光を浴びてすっきりと立っている。本校の卒業生も、暖かくて明るい看護師になってほしいという願いを校章に込めた。

以降ひまわりは本校のシンボルとなっている。

## 教育目的

人間の生命と個々の人格を尊重し、その人らしい生活を支えられるよう、科学的根拠に基づいた高度専門医療から在宅医療までの幅広い分野で地域医療の担い手となる看護師を育成する。

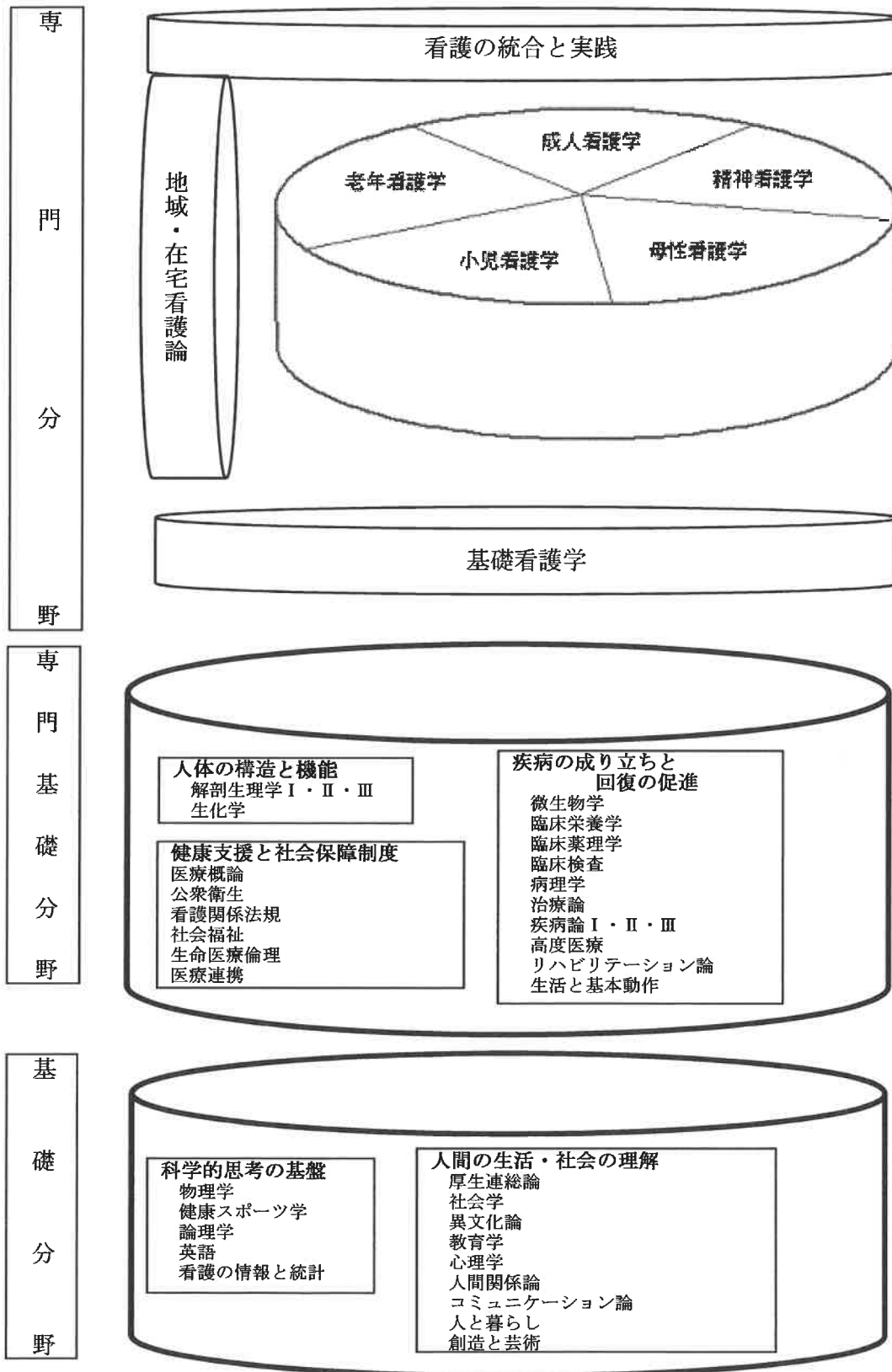
## 教育目標

1. あらゆる健康段階やヘルスケアの場に合わせて、対象者の暮らしを支えるための基礎的能力を養う。
2. 対象者の個々の状態および状況に気づき、科学的根拠に基づいた看護を判断・実践・探求するための基礎的能力を養う。
3. 関わるすべての対象者に関心をもち、良好な関係を築くための基礎的能力を養う。
4. 対象者を尊重し、倫理に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
5. 対象者の暮らしに合わせ、多職種と連携しながら、保健・医療・福祉に幅広く対応できる基礎的能力を養う。
6. 看護師としての自覚と責任をもち、目標に向かって成長し続ける基礎的能力を養う。
7. 対象者の個々の思いに寄り添い、その人自身の望む姿を支えるための基礎的能力を養う。

## 主要概念の定義

人間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間は、生活者であり、個別的な存在である。</li> <li>2. 人間は生を受けてから死に至るまでの間、いずれかの成長・発達段階にある。</li> <li>3. 人間は、身体的・精神的・社会的・文化的側面を持つ統合体である。</li> <li>4. 人間は、共通する基本的欲求をもつ。</li> <li>5. 人間は、環境との相互作用で絶えず変化し、個々が持つ健康上の課題も変化する。</li> <li>6. 人間は、価値観と自らの責任において意思決定し、自律に向かう存在である。</li> </ol>
健康	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康とは、身体的・精神的・社会的・文化的に調和が取れている、あるいはとろうとしている状態である。</li> <li>2. 健康には、段階があり、連続的かつ流動的である。</li> <li>3. 健康は、環境と相互に作用しあって変化している。</li> <li>4. 健康に生活することは、人間の権利である。</li> <li>5. 健康には、個人によって異なる価値観がある。</li> </ol>
環境	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境は、物理的・生物的・社会的・文化的要素で構成される。</li> <li>2. 環境は、内部環境と外部環境に分けられる。</li> <li>3. 内部環境と外部環境は、相互に作用しあって変化している。</li> <li>4. 環境は、人間の健康に影響を与え変化している。</li> </ol>
看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護は、個人・集団の大きさに関わらず、あらゆる健康段階や成長・発達段階にある人々の一生涯に携わる。</li> <li>2. 看護は、対象者の生命の尊厳と人間尊重を基に実践される。</li> <li>3. 看護は、対象者と看護師の人間関係を基盤とし、双方の協同によって展開される。</li> <li>4. 看護は、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、または平和な死に向けた援助を行うことである。</li> <li>5. 看護は、対象者にとって最良の健康状態になることを目指す。</li> <li>6. 看護は、その人らしい生活を支えることである。</li> <li>7. 看護は、対象者を身体的・精神的・社会的・文化的に統合してとらえ援助を行うことである。</li> <li>8. 看護は、あらゆるヘルスケアの場および地域社会で実践される。</li> <li>9. 看護は、対象者の基本的欲求を踏まえ、自立に向けて援助を行うことである。</li> <li>10. 看護は、対象者の健康上の課題を明らかにし、解決するために、科学的根拠に基づく専門的知識・技術を用いて実践する。</li> <li>11. 看護は、対象者の健康と心豊かな暮らしのために、多職種と協働し実践される。</li> <li>12. 看護は常に質の向上を求められており、継続的な学びの上に、その質の向上が保証される。</li> </ol>

# 教育課程の構造



## 分野・領域の概要

### I 基礎分野

基礎分野は、専門基礎分野・専門分野において、その人らしい生活を支えるための看護を学ぶ上で必要な基礎を学ぶ。具体的な学習内容として、科学的思考および論理的思考を高めるための基礎的学習、人間と生活および社会を広く理解するための基礎的学習、国際化・情報化社会に対応できる基礎的能力を身につける学習、対人関係能力を高めるための基礎的学習をする。

### II 専門基礎分野

専門基礎分野は、専門分野の学習の基礎となる知識や能力を養うことを目的とする。専門基礎分野では、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を身につけるための基礎的知識を習得する。また、関係機関や専門職と協働し、セルフケア能力を高めるための援助を行うための基礎的知識の習得を目指す。具体的な学習内容として、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度に関する基礎的学習をする。

### III 専門分野

#### 基礎看護学

基礎看護学は、専門分野の土台に位置しており、看護学への入り口として考えられる。また各領域の基盤であり、さらに各領域へ繋いでいくという重要な役割がある。看護の基盤とは単に基礎的な知識や技術を学ぶのではなく、態度や考え方を育てることも基礎看護学の重要な役割である。近年、看護現場では臨床判断能力、コミュニケーション力が強く求められている。よって看護の基盤となる基礎的理論、各領域の基盤となる基礎的知識や基礎的技術を学ぶ。また臨床判断能力、コミュニケーション力、フィジカルアセスメント力を強化し、さらに看護師として倫理的に判断し行動するための基礎を学ぶ。

#### 成人看護学

成人看護学が対象とする「成人」とは、身体的および心理・社会的に成長・成熟した人である。誕生以降、子どもと呼ばれる時期を経て現在に至り、この後歳月を経て老人と呼ばれる時期に入る人である。一般に16歳～64歳までを成人期としており、身体が成長し生体機能も高まり最高点を極めた後徐々に衰退していく過程にある。心理的発達も未熟な段階から成熟した状態へと進化し精神的、社会的活動が豊かになる時期でもある。

成人期は、発達段階の視点から青年期、壮年期、向老期に区分され、それぞれ異なる発達課題がある。成人看護の対象の年代は幅広く心身の成長、発達の段階に応じてそれぞれの特徴を理解する必要がある。たとえ同じ年齢でも、その人が生きてきた時代や文化的背景、生活環境により物事に対する価値観や倫理観、健康に影響を及ぼす生活習慣が異なる。対象がどのような社会的・文化的時代を生きてきたのかを知ることも必要となる。

また成人期は、社会において人々が生活を営む上で、中心的な責任を担う立場にある。職場や家庭、地域社会の一員としていて期待される責任を果たす時期である。社会に影響を及ぼし、今までの生活

習慣やストレスにより健康問題を生じやすい時期である。その上で、成人看護とは成人期にある対象の健康段階や成長・発達段階に応じた自立に向けて、その人らしくよりよく生きるために生活環境を整え、日常生活への対応と最良の健康状態になることを目指す活動である。

成人看護学では、成人期にある人を自立/自律した意思決定できる存在として理解する。健康の保持増進、入院中の危機的状況や苦痛の緩和、生活習慣病やがんなどの成人に特有な健康問題に着目し、成人看護の機能と役割、看護の方法を学ぶ。

## 老年看護学

老年看護学が対象とする老年期の方は、WHOで定義されている65歳以上の高齢者である。老年期は、身体が成長し生体機能も高まり最高点を極めた後、徐々に衰退していく。そして、加齢による生理的老化や病的老化が見られ、老化による心理的影響や社会的影響が現れる時期にある。

老年看護学は、人生の集大成の時期に関わることになる。加齢による心身の変化や、疾病・障害を抱える高齢者、健康増進や予防に励む高齢者など、さまざまな健康レベルにある高齢者に対し、もてる力を最大限にいかしながら、その人らしい生活を整え、最終的に安らかな死を迎えられるような看護の方法を学ぶ。

## 小児看護学

一般に小児とは0～15歳までの子どもである。

小児期は単に身体が小さいだけでなく、身体的、情緒的、知的、社会性の成長・発達などの様々な側面が相互に関連しあって急激に変化する。したがって、ともに生活する家族との相互作用や、おかれている環境に大きく影響される。よって、小児看護の対象は、子どもだけにとどまらず、子どもとともに生活する家族、子どもを取り巻く環境が含まれる。

小児看護学では、様々な健康段階にある子どもの最善の利益を基本に、子どものケアにおいて主要な役割を果たす家族や子どもの養育に携わる人々のおかれた状況を十分に把握したうえで、成長・発達段階および健康段階に応じた具体的な看護の方法を学ぶ。

また、昨今、複雑化・多様化する子どもを取り巻く社会や環境からの成長・発達への影響を理解するとともに、子どもの権利が守られ、健やかに安心・安全に生活するための社会資源や法制度について学ぶ。

## 母性看護学

母性とは、現に子どもを産み育てているもののほかに、将来子どもを産み育てるべき存在、および、過去においてその役目を果たしたものを指す。したがって、母性看護学の対象は母子およびその家族に限らず生涯を通じて性と生殖に関する健康を守る観点から、女性のライフサイクルにおけるあらゆる性差の人間にまで及ぶ。

母性看護学では、妊産褥婦および新生児への看護活動を指す周産期、思春期、更年期など女性の一生を通じた健康生活の維持・増進、疾病予防を目的とした看護を学ぶ。

## 精神看護学

精神看護は、人の精神の健康を対象に、病気の有無にかかわらず、ストレスや危機を感じている人の理解と支援を目的とする。精神看護で欠かせない対象の自主性や自立性、人権擁護といった看護倫理をベースに、病院・地域を問わずあらゆる場面での看護実践が必要となる。また、現代社会との相互作用によって引き起こされている多様なメンタルヘルス上の問題と予防を含む精神保健福祉活動がのぞまれている。

精神看護学は精神保健看護学とも呼ばれ精神科看護と精神保健がある。精神科看護は精神疾患をもちつつ生きる人々とのかかわりから、精神障害やケアについての専門的知識が積み重ねられ、人間のありようや関係についての理解を深めてきた学問である。精神保健は、広く人間の心の健康について学び、精神疾患を特殊な疾患としてではなく、人間にとってひとつの局面としてとらえるためにある。また、精神障害者が単に精神疾患を抱えるだけでなく、偏見の目で見られ、基本的人権としてさまざまな自由を奪われてきた。偏見や差別といった社会的な問題や歴史を含む学問である。当校は、精神保健領域にて精神の健康を保持・増進するための活動と精神保健医療福祉にかかわる諸制度を学ぶ。精神科看護領域にて病態、疾患、検査、治療を通して精神障害とその看護を学ぶ。

## 地域・在宅看護論

人口および疾病構造の変化、人々の医療に関する価値観の変化などを背景にして、「病院完結型」医療から、地域で治し、支える「地域完結型」医療への改革が行われている。そのため、すべての人々が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられることが求められるようになった。したがって、地域・在宅看護論の対象は、様々な健康状態で療養している人々だけではなく、療養生活を支えている家族や、健康な人々、誕生前から死を迎えるまでの全ての発達段階にある人々となる。そのため、予防的視点を持ち、人々が疾病や障害とともに暮らすことになっても、自分らしく暮らしていけるように支えることが必要である。地域・在宅看護論では、対象が地域で自分らしい暮らしを継続するための看護を学ぶ。

## 看護の統合と実践

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容を、より臨床での看護実践に近い形で学習し、知識・技術を統合することを目的とする。看護基礎教育では、看護実践能力と臨床判断の基礎的能力を養うことが求められている。

そこで、当校では、看護師として臨床現場で基礎的な知識と技術を活用して適切に対応する応用力を修得することを目的とする。これまで学習してきた知識と技術を総合的に活用することを各科目の中で経験と振り返りから学習し、看護師として、また組織の一員としての役割と責務を学ぶ。



## 教育課程進度表

分野	科目名	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	厚生連総論	1	15						
	物理学	1	15						
	論理学	1	30						
	看護の情報と統計	1	30						
	社会学	1	30						
	心理学	1	30						
	人間関係論	1	30						
	コミュニケーション論	1	15						
	人と暮らし	1	30						
	英語	1	30						
	異文化論	1	15						
	教育学	1	30						
	創造と芸術	1	15						
	健康スポーツ学	1	30						
	小計	14	345	9 (225)		5 (120)		0 (0)	
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	30						
	解剖生理学Ⅱ	1	30						
	解剖生理学Ⅲ	1	30						
	生化学	1	15						
	微生物学	1	30						
	医療概論	1	15						
	臨床栄養学	1	30						
	医療連携	1	15						
	社会福祉	1	30						
	病理学	1	15						
	疾病論Ⅰ	1	30						
	疾病論Ⅱ	1	30						
	疾病論Ⅲ	1	30						
	生活と基本動作	1	15						
	治療論	1	15						
	リハビリテーション論	1	15						
	臨床検査	1	15						
	臨床薬理学	1	30						
	看護関係法規	1	15						
	公衆衛生	1	30						
高度医療	1	30							
生命医療倫理	1	30							
小計	22	525	18 (420)		4 (105)		0 (0)		
専門分野	基礎看護学	(16)	(510)						
	看護概論	1	30						
	基礎看護技術Ⅰ	1	30						
	基礎看護技術Ⅱ	1	30						
	基礎看護技術Ⅲ	1	30						
	基礎看護技術Ⅳ	1	30						
	基礎看護技術Ⅴ	1	30						
	基礎看護技術Ⅵ	1	30						
	看護リフレクション演習Ⅰ	1	15						
	看護リフレクション演習Ⅱ	1	15						
	看護の思考と臨床判断	1	30						
	臨床看護方法論	1	30						
	看護研究の基礎	1	30						
	基礎看護実習Ⅰ	1	45						
	基礎看護実習Ⅱ	1	45						
	基礎看護実習Ⅲ	1	45						
	基礎看護実習Ⅳ	1	45						

分野	科目名	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	成人看護学	(14)	(525)						
	成人看護概論	1	15						
	成人看護方法論Ⅰ	1	30						
	成人看護方法論Ⅱ	1	30						
	成人看護方法論Ⅲ	1	30						
	成人看護方法論Ⅳ	1	30						
	成人看護技術論	1	30						
	成人・老年看護実習Ⅰ	2	90						
	成人・老年看護実習Ⅱ	2	90						
	成人・老年看護実習Ⅲ	2	90						
	成人・老年看護実習Ⅳ	2	90						
	老年看護学	(6)	(195)						
	老年看護概論	1	15						
	老年看護方法論	1	30						
	老年看護技術論Ⅰ	1	30						
	老年看護技術論Ⅱ	1	30						
	老年看護実習	2	90						
	小児看護学	(6)	(195)						
	小児看護概論	1	15						
	小児看護方法論Ⅰ	1	30						
	小児看護方法論Ⅱ	1	30						
	小児看護技術論	1	30						
	小児看護実習	2	90						
	母性看護学	(6)	(195)						
	母性看護概論	1	15						
	母性看護方法論Ⅰ	1	30						
	母性看護方法論Ⅱ	1	30						
	母性看護技術論	1	30						
	母性看護実習	2	90						
	精神看護学	(6)	(195)						
	精神看護概論	1	15						
	精神看護方法論Ⅰ	1	30						
	精神看護方法論Ⅱ	1	30						
	精神看護技術論	1	30						
	精神看護実習	2	90						
	地域・在宅看護論	(8)	(225)						
	地域・在宅看護の基礎Ⅰ	1	15						
	地域・在宅看護の基礎Ⅱ	1	15						
	地域・在宅看護概論	1	15						
	地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30						
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30						
	地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30						
	地域・在宅看護実習	2	90						
	看護の統合と実践	(8)	(210)						
	医療安全	1	15						
	災害・国際看護	1	15						
	看護管理方法論	1	30						
看護管理技術論	1	30							
臨床実践	1	15							
ケーススタディ	1	15							
統合実習	2	90							
小計	70	2250	18 (465)		28 (795)		24 (990)		
総計	106	3120	45 (1110)		37 (1020)		24 (990)		

## 学習内容（1年次配当科目）

科目名	単位	時間	ページ
厚生連総論	1	15	10
物理学	1	15	11
論理学	1	30	12
看護の情報と統計	1	30	13
社会学	1	30	14
心理学	1	30	15
人間関係論	1	30	16
コミュニケーション論	1	15	17
人と暮らし	1	30	18
解剖生理学Ⅰ	1	30	19
解剖生理学Ⅱ	1	30	20
解剖生理学Ⅲ	1	30	21
生化学	1	15	22
微生物学	1	30	23
医療概論	1	15	24
臨床栄養学	1	30	25
医療連携	1	15	26
社会福祉	1	30	27
病理学	1	15	28
疾病論Ⅰ	1	30	29
疾病論Ⅱ	1	30	30
疾病論Ⅲ	1	30	31
生活と基本動作	1	15	32
治療論	1	15	33
リハビリテーション論	1	15	34
臨床検査	1	15	35
臨床薬理学	1	30	36
看護概論	1	30	37
基礎看護技術Ⅰ	1	30	38
基礎看護技術Ⅱ	1	30	39
基礎看護技術Ⅲ	1	30	40
基礎看護技術Ⅳ	1	30	41
基礎看護技術Ⅴ	1	30	42
看護リフレクション演習Ⅰ	1	15	43
看護の思考と臨床判断	1	30	44
臨床看護方法論	1	30	45
成人看護概論	1	15	46
成人看護方法論Ⅰ	1	30	47
老年看護概論	1	15	48
小児看護概論	1	15	49
母性看護概論	1	15	50
精神看護概論	1	15	51
地域・在宅看護の基礎Ⅰ	1	15	52
基礎看護実習Ⅰ	1	45	実習要項
基礎看護実習Ⅱ	1	45	実習要項
合計	45	1110	

<科目名> 厚生連総論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

新潟県厚生農業協同組合連合会の歴史・理念・医療事業を理解するとともに、社会人基礎力や看護師としての意識を高める。

<目的> 新潟県厚生農業協同組合連合会（JA 新潟厚生連）と社会人としての基本的な考え方を学ぶ。

<目標>

1. JA 新潟厚生連の概要と地域からのニーズを理解する。
2. 社会人としての基本的な考え方を理解する。
3. 看護師になるための自己の考えを価値づける。
4. 看護学生としての学習方法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学習内容	時配	担当
1. JA 新潟厚生連の概要 1) 歴史 2) 理念 3) 組織 4) 各事業内容 5) 働く意味 求める人材 6) JA 新潟厚生連病院の特徴と地域のニーズ	2時間	事務部長
2. 社会人としての基本的な考え方 1) 社会人に求められる接遇マナー 2) 病院における接遇	4時間	外部講師
3. 看護師になるための自己の考え	2時間	学内教員
4. 看護学生としての学習方法	2時間	外部講師
1) 看護学校での学習の方法 2) 在学する上級生と交流	5時間	学内教員

<評価> 課題提出

<テキスト>

1. 片野裕美:看護学生の勉強と生活まるごとナビ、日本看護協会出版会

<科目名> 物理学

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

日常生活動作や看護活動は様々な物理現象から成り立っており、医療においても物理現象を応じた機器が多い。物理学と看護と医療は密接な関係にあり、看護に活かす物理学の知識を学習する。

<目的> 看護に応用するための物理学の基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 日常生活動作及び看護活動に必要な物理の知識を理解する。
2. 検査・治療・処置に必要な物理の知識を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 移動動作・体位変換・ボディメカニクスに必要な物理学 1) 力の加減 2) 重心 3) トルク 4) 作用・反作用 5) 力学 6) 摩擦 2. 温度・電法・体温の理解に必要な物理学 1) 比熱 2) 伝導・対流・放射・喪失 3. 検査・治療・処置に関する物理学 1) ネブライザーの仕組み 2) 血圧の仕組み 3) 低圧持続吸引装置の仕組み 4) 酸素吸入 5) アンプルとバイアル 6) 点滴・輸血・経管栄養の落下速度 7) 酸・アルカリとpH 8) 濃度	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 平田雅子：完全版 ベッドサイドを科学する 看護に活かす物理学、学習研究社

<科目名> 論理学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

文章を読んで解釈や自分の考えを論理的に表現する力を身につける。他者に考えを明確に伝えるための文章の書き方・規則を学習し、レポート、ケーススタディに活かす。

<目的> 自己の考えをわかりやすく他者に伝えるための論理的思考を高める。

<目標>

1. 論理的思考を理解し、自己の考えを論理的に記載する基礎的知識を身につける。
2. 論理的思考を理解し、自己の考えを論理的に口頭で表現する基本的知識を身につける。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 論理的思考とは何か 2. 文章の読解と要約 3. 論理的な文章の書き方 1) 文章の構成 2) 文の7原則 3) 文章の作成手順 4) 文献の活用 4. 論理的な話し方 1) 論理的な主張の仕方 2) 論理的な反論の仕方 5. パワーポイントを使ったプレゼンテーションの基礎	30時間	外部講師

<評価> 課題提出

<テキスト> なし

<科目名> 看護の情報と統計

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

情報化社会といわれる現代において、情報活用のツールやシステムは多様化している。

情報の基礎知識から保健医療、看護における情報活用について学ぶとともに、看護研究で活用できるように統計学の知識を学習する。

<目的> 保健医療看護における情報活用と統計の基本を学ぶ。

<目標>

1. 情報の定義と特徴を理解する。
2. 情報通信技術 (ICT) の特徴を理解する。
3. 看護における情報と、統計の基本を理解する。
4. 保健医療看護における情報活用を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 情報の定義と特徴 1) 情報とは何か 2) 情報の特性	4時間	外部講師
2. 情報通信技術 (ICT) の特徴 1) コンピュータ・インターネットの仕組み 2) 情報化社会の変化 3) 情報化社会の諸問題	2時間	外部講師
3. 看護における情報 1) 看護のデータとデータの分類 2) 看護のデータの標準化とエビデンス 3) 看護の質指標	2時間	学内教員
4. 看護における統計の基本 1) 記述統計 ①データの種類と集計 ②度数分布とヒストグラム ③平均値と中央値 ④正規分布 2) 推測統計 ①F検定 ②t検定 ③カイ2乗検定 ④相関係数の検定	18時間	外部講師
5. 保健医療看護における情報 1) 保健医療情報とコミュニケーション 2) 医療看護における電子化 3) 個人情報保護、セキュリティ	4時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 中山和弘他: 系統看護学講座 別巻 看護情報学、医学書院
2. 椎橋実智男: 看護医療系のための情報科学入門、サイオ出版

<科目名> 社会学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

人間は社会の中で生活する。看護の対象である人間の理解を深めることができるように、社会構造、集団、組織、ネットワーク、地域社会、家族の機能と構造、職業、職業集団について現代社会の特徴を踏まえて学習する。

<目的> 人間と生活・社会を幅広く理解するための基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 社会の構造、機能、役割を理解する。
2. 社会的存在として人間を理解する。
3. 現代社会の特徴を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 社会学の基礎概念 1) 社会学とはどんな学問か 2) 社会的行為、相互作用 3) 社会関係、構造 4) 人間と社会：集団、組織、ネットワーク	30時間	外部講師
2. 家族 1) 家族とは何か 2) 家族の機能と構造 3) 現代社会の家族とこれからの家族		
3. 地域社会 1) 過疎化 2) 都市化 3) コミュニティの変化		
4. 職場 1) 組織と人間 2) 職場と社会 3) 医療集団		
5. 現代社会の特徴 1) 福祉国家と持続可能性 2) 我が国の保健医療制度と諸問題		

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 井口高志他：系統看護学講座 基礎分野 社会学、医学書院



<科目名> 心理学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的・文化的な側面をもつ統合体として全人的に理解することが必要である。その1つの側面である一般的な人の精神的側面を、発達・集団・個性の視点から理解するための学習をする。また、カウンセリングの理論と技法について学習する。

<目的>

看護の対象である人間の精神的側面を理解するために必要な心理学の基礎的知識およびカウンセリングの理論と技法について学ぶ。

<目標>

1. 心理学の歴史と現代における位置づけを理解する。
2. 心理学において発達・集団・個性・行動の視点から、人の心がどのように理解されているか知る。
3. 看護に活かすカウンセリングの理論と技法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 心理学の概念 1) 心理学の歴史 2) 現代における心理学 2. 心の理解 1) 意識・知覚・記憶・知能・感情・意思・思考 2) フロイトの精神心理学 3) ユングの深層心理学 4) 類型論 5) 心理検査 3. 心の防衛機制 4. 身体的側面と心 1) 心と体の関係 5. 発達段階と心 1) 発達心理学 ①フロイトの精神性発達理論 ②エリクソンの心理・社会的発達理論 6. 集団と心 1) 集団心理 7. カウンセリングの理論と技法 1) カウンセリングの定義・目的 2) カウンセリングの基本的な技法 8. 行動する人間の理解	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 長田久雄：看護学生のための心理学、第2版、医学書院

<科目名> 人間関係論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護職にとって、人間関係を築くことは重要である。多様化する社会の中で、看護ケアの対象である患者、家族のもつ価値観や期待を理解し尊重することはますます重要となる。看護師を志す上で、よりよい人間関係をつくっていくための基礎的知識や方法を学習する。

<目的>

人間関係についての理解を深め、よりよい関係をつくっていくための視点やスキルを学ぶ。

<目標>

1. 人間関係に必要な基礎的知識を理解する。
2. 人間関係をつくる理論と技法を理解する。
3. 人間関係をつくる理論と技法を活用しコミュニケーションを実践する。
4. 保健医療における人間関係を理解する。
5. 他者の考え方や行動に関心を示す。

<学習内容・時配・担当>

学習内容	時配	担当
1. 人間関係に必要な基礎的知識 1)人間関係の中の自己と他者 2)対人関係と役割 3)人間の態度と対人行動 4)集団と個人の人間関係	20 時間	外部講師
2. 人間関係をつくる理論と技法 1)コーチングの理論とスキル 2)アサーションの理論とスキル		
3. 人間関係をつくる理論と技法を活用したコミュニケーションの実践 1)コーチングのスキルを活用したコミュニケーション 2)アサーティブなスキルを活用した問題解決		
4. 保健医療における人間関係 5. 共同作業(課題作業)	10 時間	学内教員

<評価> テスト 課題提出

<テキスト>石川ひろの:系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院

<科目名> コミュニケーション論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

対人関係の基盤とするコミュニケーションの概念について学習する。よりよいコミュニケーションを構築するために学習を通して、自己のコミュニケーションの傾向を知り、課題を明確にする。

<目的> 対人関係を築くための基盤となるコミュニケーションの概念をと技術を学ぶ。

<目標>

1. 対人関係を築くためのコミュニケーションの概念と技術について理解する。
2. 自己のコミュニケーションの傾向を知り、課題を明確にする。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. コミュニケーションの基礎 1) コミュニケーションの意義 2) コミュニケーションに影響する要件 3) コミュニケーションの種類・手段 4) 良いコミュニケーションを持つための技術 2. コミュニケーション能力の育成 1) 効果的なコミュニケーションと非効果的コミュニケーション 2) コミュニケーションの振り返り方法	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. プレゼンテーション学習研究会：自分を大きく見せる話し方 コミュニケーション技法、ウイネット

<科目名> 人と暮らし

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

人間には人それぞれの暮らしがある。社会の変化と共に人間の暮らしがどのように変化したのかを学び、暮らしを取り巻く環境と健康の相互作用を学習する。

<目的> 人の暮らしを理解し、暮らしを取り巻く環境と健康との相互作用を学ぶ。

<目標>

1. 暮らしの意義を理解する。
2. 暮らしの特徴について理解する。
3. 家族と健康の関連について理解する。
4. 住民の暮らしぶりを知る。
5. 地域での多様な暮らしを受容する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 人の暮らしとは 1) 暮らしの変遷 ①食・衣・住 ②地球と環境 2. 暮らしと健康 1) ライフスタイルと病気 2) 生活環境がもたらす健康への影響 3) 社会格差と健康 3. 暮らしの中の家族 1) 地域の特徴 2) 暮らしと家族 3) その人らしい生活 (QOL)	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト> なし

<科目名> 解剖生理学 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

看護の対象である人間の正常なからだの形態と構造、機能と役割を学習する。具体的には人体を構成する単位、呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節、栄養の消化と吸収について学習する。

<目的> 健康・疾病・障害の理解の基盤となる人体の構造と機能を学ぶ。

<目標>

1. 人体を構成する単位について理解する。
2. 呼吸と血液のはたらきに関する構造と機能を理解する。
3. 血液の循環とその調節に関する構造と機能を理解する。
4. 栄養の消化と吸収に関する構造と機能を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 解剖生理学のための基礎知識 1) 形から見た人体 2) 素材から見た人体 3) 機能から見た人体 2. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造 2) 呼吸の働き 3) 血液の組成と機能 (血液型を含む) 3. 血液の循環とその調節 1) 循環器系の構成 2) 心臓の構造 3) 心臓の拍出機能 4) 末梢循環系の構造 5) 血液の循環の調整 6) リンパとリンパ管 4. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4) 腹膜	30 時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、医学書院
2. 講談社編：からだの地図帳、講談社
3. 菱沼典子：看護形態機能学ワークブック、日本看護協会出版会
4. 坂井健雄他：解剖生理学ワークブック、医学書院

<科目名> 解剖生理学Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護の対象である人間の正常なからだの形態と構造と機能を学習する。具体的には体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、身体の支持と運動について学習する。

<目的> 健康・疾病・障害の理解の基盤となる人体の構造と機能を学ぶ。

<目標>

1. 体液の調節と尿の生成に関する構造と機能を理解する。
2. 内臓機能の調節に関する構造と機能を理解する。
3. からだの支持と運動に関する構造と機能を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓 2) 排尿路（排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿） 3) 体液の調節（水の出納、電解質異常、塩酸基平衡） 2. 内臓機能の調節 1) 自律神経による調節 2) 内分泌による調節 3) 全身の内分泌戦と内分泌細胞 4) ホルモン分泌の調節 5) ホルモンによる調節の実際 3. 身体の支持と運動 1) 骨格とはどのようなものか 2) 骨格の連結 3) 骨格筋 4) 体幹の骨格と筋 5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、医学書院
2. 講談社編：からだの地図帳、講談社
3. 菱沼典子：看護形態機能学ワークブック、日本看護協会出版会
4. 坂井健雄他：解剖生理学ワークブック、医学書院

<科目名> 解剖生理学Ⅲ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護の対象である人間の正常なからだの形態と構造と機能を学習する。具体的には情報の受容と処理、身体機能の防御と適応、生殖器・発生と老化のしくみについて学習する。

<目的> 健康・疾病・障害の理解の基盤となる人体の構造と機能を学ぶ。

<目標>

1. 情報の受容と処理に関する構造と機能を理解する。
2. 身体機能の防御と適応に関する構造と機能を理解する。
3. 生殖器・発生と老化のしくみに関する構造と機能を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能 2) 脊髄と脳 3) 脊髄神経と脳神経 4) 脳の高次機能 5) 運動機能と下行伝導路 6) 感覚機能と上行伝導路 7) 目の構造と視覚 8) 耳の構造と聴覚・平衡覚 9) 味覚と嗅覚 10) 痛み(疼痛) 2. 身体機能の防御と適応 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機能 3) 代謝と運動 4) 体温とその調節 3. 生殖器・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 坂井健雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、医学書院
2. 講談社編：からだの地図帳、講談社
3. 菱沼典子：看護形態機能学ワークブック、日本看護協会出版会
4. 坂井健雄他：解剖生理学ワークブック、医学書院

<科目名> 生化学

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

生物は、生きていくためのエネルギーを獲得し、変化する環境に自分を合わせていくなどいろいろな目的で体内活動を行っている。その活動を支える様々な化学的性質や反応の特徴について学習する。この学習は、疾病に見られる特有の化学的異常を理解するための基礎となる。

<目的> 生体内の物質の構造、機能とその化学反応を学ぶ。

<目標>

1. 人間の生体を構成する物質とその代謝を理解する。
2. 人間の遺伝情報とその発現を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 生体を構成する物質 2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 3. 糖質の構造と機能・糖質代謝 4. 脂質の構造と機能・脂質代謝 5. タンパク質の構造と機能・タンパク代謝 6. ポルフィリン代謝と異物代謝 7. 遺伝子と核酸 8. 遺伝子の複製・修復・組み換え 9. 転写 10. 翻訳と翻訳後修飾 11. シグナル伝達	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 三輪一智、中恵一：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学、医学書院



<科目名> 微生物学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

微生物学の基礎を把握し、病原微生物の分類や特徴、感染症の現状と問題点、感染症への対策について学習する。また、看護の対象および自分自身に対し、感染防止とともに感染予防の観点から的確な対応・対策を行えるように基礎的知識を学習する。

<目的> 微生物の概要および感染症とその予防法を理解するための基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響について理解する。
2. 感染経路とその予防対策を理解する。
3. 感染症の近年の動向と対策を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 微生物の性質 1) 微生物の種類と特徴 2) 主な病原微生物 2. 感染とその防御 1) 感染の成立から発症 3. 生体防御機構 1) 免疫 ①自然免疫 ②獲得免疫 ③粘膜免疫 ④感染の徴候と症状 4. 滅菌と消毒 1) 滅菌・消毒の定義と滅菌法 5. 感染症の検査と診断、治療 6. 感染症の現状と対策 1) 感染症の現状と問題点 ①新興・再興感染症 ②院内感染とその特徴 ・日和見感染 ・薬剤耐性 2) 感染症への対策 3) 免疫による予防と治療	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 吉田真一他：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学、医学書院

<科目名> 医療概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

医療の目的、機能と役割、特色について基礎知識を学び、将来医療を実践する心がまえを身につける。また、保健・医療・介護の概要として医療システム、医療従事者の役割を学習する。さらに医療が抱える課題を知る。

<目的> 医療の概念および機能と役割、医療を取り巻く社会情勢を学ぶ。

<目標>

1. 医療の歩みや変遷を理解する。
2. 医療の概念と機能を理解する。
3. 保健・医療・介護の概要を理解する。
4. 医療を取り巻く諸問題を知る
5. 生命の価値や生きることの意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 生きることと死ぬこと 1) 生命を尊ぶ心 2) 健やかに生きる 3) 老いてこそ人生 4) おだやかに死ぬこと 2. 医療と医学 医療と社会 1) 医学の歴史 2) 医の倫理 3) 医療安全 4) 最先端医療 3. 保健・医療・介護 1) 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2) 社会保障制度 3) 公衆衛生と保健 4) 医療システム 5) チーム医療 6) 介護 4. 医療政策 1) 医療サービスの規制 2) 医療職の不足	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 康永秀生：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度①、医療概論、医学書院



<科目名> 医療連携

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

現代の医療は、対象の個別に合わせてさまざまなスキルを持つ医療スタッフが連携し、協働しながら取り組むことが求められている。そこで、医療連携の目的と看護師の役割を知り、看護師と連携する他職種への理解を深め、チーム医療の考え方、現状の課題について学習する必要がある。専門性の違いによる医療に対する考え方や介入方法の違いについて知る機会を通して、今後の展望を推察する。

<目的> 保健・医療・福祉における専門職の役割および機能を知り、多職種連携の必要性および課題を学ぶ。

<目標>

1. 保健・医療・福祉における専門職の役割と機能について理解することができる。
2. 保健・医療・福祉における多職種連携のあり方と課題について考えることができる。
3. 保健・医療・福祉における多職種連携のあり方を学び実践につなげる枠組み、モデルがイメージできる。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. チーム医療 1) チーム医療の必要性 2) チーム医療の類型 3) チーム医療の志向性 4) 医師・歯科医師との連携 5) 医療関連職種との連携	2時間	学内教員
2. 医療連携職種の特徴 1) 役割と機能 2) 各職種の在り方 ①理学療法士、作業療法士、言語療法士 ②薬剤師、臨床検査技師 ③放射線技師、栄養士 ④ケースワーカー、医療連携室スタッフ	8時間	外部講師
3) 看護師の役割	5時間	学内教員
3. チーム医療に必要な機能 1) 職種間の連携 2) 施設内の連携 3) 施設を超えた連携 4) コミュニケーション		
4. 今後の展望と課題		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 小澤かおり編：看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全、メジカルフレンド社

<科目名> 社会福祉

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

私たちは生きていく上で多くの社会福祉や社会保障の制度に支えられている。福祉的な考え方に対する理解を深めると同時に、病院での医療から見る看護だけでなく、生活や暮らしの視点から医療のあり方をとらえるための基盤とする。

<目的> 社会福祉や社会制度の目的と機能、地域や対象による社会福祉の実例を学ぶ。

<目標>

1. 社会福祉、社会保障の定義、目的、機能を理解する。
2. 社会福祉の仕組みを説明する。
3. 社会資源の活用とその意義を理解する。
4. 地域福祉の基本理念と福祉計画の概念を理解する。
5. 対象によって異なる社会福祉の目的と施策、課題を理解する。
6. 公的扶助の特徴を理解する。
7. 社会保険制度の種類としくみ、課題を理解する。
8. 生活や暮らしと社会福祉の関係を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 現代社会と社会保障・社会福祉 1) 「社会の制度」としての社会保障・社会福祉の分類 2) 社会福祉サービスへのニーズの拡がり地域包括ケアシステム 2. 暮らしと社会保障 3. 社会福祉の仕組みと社会資源 4. 地域福祉の推進 5. 対象別にみる社会福祉 6. 公的扶助制度 1) 生活保護制度と低所得者対策 2) 生活保護における生活保障 3) 生活困窮者対策と生活保護制度の見直し 7. 社会保険制度 1) 年金制度 2) 医療保険制度 3) 介護保険制度 4) 雇用保険制度 5) 労災保険制度 8. 生活と福祉	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 増田雅暢、島田美喜他編：ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障、メディカ出版

<科目名> 病理学

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

解剖生理学、生化学でひとの身体の正常状態について学んだあと、正常状態が損なわれた状態を疾病分類に基づき、疾病の成り立ちについての概要と各組織・臓器の病変について学習する。

<目的> 疾病・障害の理解の基盤となる病理学の基礎知識を学ぶ。

<目標>

1. 疾病の成り立ちを理解する。
2. 人体に起こる組織の変化を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 生体の反応と疾病の機序 1) 疾病を引き起こす誘因 2) 病理学的検査・病理診断 3) 病理解剖 2. 先天異常と遺伝子異常 1) 奇形 2) 突然変異 3. 代謝障害 1) 萎縮 2) 壊死 3) 過形成 4) 変性 4. 循環障害 1) 局所性循環障害 2) 全身性循環障害 3) リンパの循環障害 5. 炎症 6. 腫瘍 1) 腫瘍の発生病理 2) 悪性腫瘍の転移と進行度	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 坂本穆彦編：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学、医学書院

<科目名> 疾病論 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

解剖生理学、生化学、臨床栄養学、病理学、臨床薬理学、臨床検査、微生物学、治療論などを統合し、主な疾病の原因、症状、検査、治療、経過について学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、造血器疾患について学習する。

<目的> 疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療の基礎知識を学ぶ。

<目標>

1. 呼吸器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
2. 循環器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
3. 造血器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 呼吸器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	14 時間	外部講師
2. 循環器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	10 時間	外部講師
3. 造血器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	6 時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 朝倉啓介他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器、医学書院
2. 吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器、医学書院
3. 飯野京子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器、医学書院

<科目名> 疾病論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

解剖生理学、生化学、臨床栄養学、病理学、臨床薬理学、臨床検査、微生物学、治療論などを統合し、主な疾病の原因、症状、検査、治療、経過について学習する。ここでは、消化器疾患、女性生殖器疾患、神経・筋疾患について学習する。

<目的> 疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療の基礎知識を学ぶ。

<目標>

1. 消化器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
2. 女性生殖器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
3. 脳神経に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療病について理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 消化器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	16時間	外部講師
2. 女性生殖器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	2時間	外部講師
3. 神経・筋疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	12時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 南川雅子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器、医学書院
2. 井手隆文他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経、医学書院
3. 末岡 浩他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器、医学書院



<科目名> 疾病論Ⅲ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

解剖生理学、生化学、臨床栄養学、病理学、臨床薬理学、微生物学、臨床検査、治療論などを統合し、主な疾病の原因、症状、検査、治療、経過について学習する。ここでは、代謝・栄養疾患、内分泌疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全、腎・尿路疾患、水・電解質異常、運動器疾患、感覚器疾患について学習する。

<目的> 疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療の基礎知識を学ぶ。

<目標>

1. 代謝・栄養疾患に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
2. 内分泌疾患に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
3. 自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
4. 腎・尿路疾患、水・電解質異常に疾患を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
5. 運動器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。
6. 感覚器に疾病を持つ患者の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療について理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 代謝・栄養疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	8時間	外部講師
2. 内分泌疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療		
3. 自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	8時間	外部講師
4. 腎・尿路疾患、水・電解質異常の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療		
5. 運動器疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	6時間	外部講師
6. 感覚器の疾患の疾病の概念（発生機序、病態、分類）、診断と治療	8時間	外部講師
1) 主な皮膚疾患の疾病の概要（発生機序、病態、分類）、診断と治療		
2) 主な耳鼻科疾患の疾病の概要（発生機序、病態、分類）、診断と治療		
3) 主な眼科疾患の疾病の概要（発生機序、病態、分類）、診断と治療		

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 井波早苗他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝、医学書院
2. 伊澤由香他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器、医学書院
3. 田中 栄他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器、医学書院
4. 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症、医学書院
5. 永井由巳他：ナッシンググラフィック EX 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚、メディカ出版

<科目名> 生活と基本動作

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

日々行われる動作のうち、基本動作として起居移動動作、食事動作、排泄動作、更衣動作がある。  
看護師は疾患や障害により基本動作が不自由になった対象を支援することが多いため、看護場面で対象の不自由さに気づくための基礎となる。

<目的> 暮らすために必要な基本動作とその中で使用される身体機能を学ぶ。

<目標>

1. 人に関わる健康の状態とそれに関連した状況を把握する方法を理解する。
2. 解剖生理の知識を用いて、日々行われる基本動作を理解する。
3. 心身状況・身体構造に合わせた基本動作を支援する方法を理解する。
4. 暮らしの中で必要な基本動作が制限されている人の気持ちを受容する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 概説 1) 形態機能とは 2. 国際生活機能分類 (ICF) 3. 生活機能の視点 4. 解剖生理と暮らしの中で必要な基本動作の融合 5. 心身状況・身体構造に合わせた基本動作支援のシミュレーション 6. 暮らしの中で必要な動作が制限されている人の気持ち	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、医学書院
2. 講談社編：からだの地図帳、講談社
3. 菱沼典子：看護形態機能学ワークブック、日本看護協会出版会
4. 坂井健雄他：解剖生理学ワークブック、医学書院

<科目名> 治療論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

疾病・障害に対して行われる各種治療法と検査の概要について学習する。ここでは、放射線検査・放射線療法、臓器移植、再生医療、手術療法、遺伝子治療について学習する。

<目的> 疾病・障害に対して行われる各種治療法の基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 治療・検査の概要を理解する。
2. 放射線の検査と治療について理解する。
3. 手術療法の概要と特徴、方法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 治療法概説 1) 診断から治療への流れ 2) 治療法の種類と特徴	3時間	外部講師
2. 遺伝子治療 1) DNA診断 2) 遺伝子治療 3) 遺伝子カウンセリング		
3. 放射線検査・放射線療法 1) 放射線の種類と性質 2) 放射線の医学利用 3) 人体への影響 4) 放射線防護・管理 5) 放射線検査の原理と種類、注意点 6) 放射線療法の種類と方法 7) 放射性同位元素 (R I) の検査と治療	6時間	外部講師
4. その他の検査 1) MR I		
5. 手術療法 1) 手術・麻酔の侵襲と生体反応 2) 手術療法の実際 3) 腹腔鏡下手術	6時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 小坂樹徳編：新体系看護学全書 別巻 治療法概説、メジカルフレンド社

<科目名> リハビリテーション論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

高齢化社会が急速に進む中、医療のあらゆる分野でリハビリテーションの知識がより重要となっている。ここではリハビリテーションの概念と定義、疾病・障害に対して行われるリハビリテーションについて学び、看護師としての役割を考える基盤とする。

<目的> 疾病・障害に対して行われるリハビリテーション療法の基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. リハビリテーションの概念と定義、目的を理解する。
2. リハビリテーションの種類と特徴を理解する。
3. リハビリテーションにおける様々な実践と評価法を実施する。
4. チームアプローチの必要性を価値づける。
5. リハビリテーションで行われる手技を実施する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. リハビリテーション 1) リハビリテーションの概念と目的 2) リハビリテーションの評価 3) チームアプローチ 4) 理学療法の実際 ①自動・他動運動・関節可動域訓練 ②呼吸理学療法、体位ドレナージ ③歩行・移動介助用具の種類・適応・介助方法・留意点・杖、松葉杖、各種歩行器での歩行と移動介助 5) 障害の予防とリハビリテーション 6) 作業療法の実際 7) 言語療法の実際	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 小坂樹徳編：新体系看護学全書 別巻 治療法概説、メヂカルフレンド社

<科目名> 臨床検査

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

高度な医療を行って人々の健康を守り増進するために、基本的な臨床検査の意義や目的、検査データを解釈する必要がある。また、様々な検査に携わるため、臨床検査の流れと検査を受ける際の看護師の役割を学ぶ。

<目的> 臨床場面で一般的に行われている検査および診断・治療との関係性を理解し、対象者に対する検査時の看護の役割を学ぶ。

<目標>

1. 疾病診断に用いられる基本的な検査法を理解する。
2. 疾病診断に用いられる基本的な検査機器・用具を理解する。
3. 臨床検査の流れと看護師の役割を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 臨床検査とその役割 1) 診療における臨床検査の役割 2) 臨床検査の種類 (検体検査・生体検査) 3) 臨床検査の場面と目的 4) 臨床検査結果の評価	10時間	外部講師
2. 主な臨床検査について 1) 一般検査 2) 血液学的検査 3) 化学検査 4) 免疫・血清学的検査 5) 内分泌学的検査 6) 微生物学的検査 7) 病理学的検査 8) 生体検査 心電図モニターの操作、管理		
3. 臨床検査の流れと看護師の役割 1) 臨床検査の流れ 2) 臨床検査の準備 3) 検査を受ける患者への説明と注意 4) 検体の採取方法、保存、移送法 5) 検査に伴う危険とその防止 6) 看護師が実施、指導する検査 7) 生体検査とその介助 8) 検査結果の取り扱い	5時間	学内教員

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 奈良信雄：系統看護学講座 別巻 臨床検査、医学書院

<科目名> 臨床薬理学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

薬物療法は疾病治療の中心的存在である。臨床では多用されている薬の薬理作用、作用機序、薬効と副作用、留意点について学習する。併せて、薬物およびその取り扱いに関する法律も学習する。薬と疾患治療の関連を理解し、与薬前の準備、与薬後の経過観察等、一連のプロセスで薬の適正使用に関する考え方を身につける。

<目的> 薬物療法の理解の基盤となる薬理学の基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 薬物の人体への作用と作用に影響を与える要因を理解する。
2. 薬物の適正かつ安全な使用方法を理解する。
3. 薬物に関連する法律を理解し、適正な管理方法を知る。
4. 薬剤の種類・作用副作用と、留意点について理解する。
5. 薬剤の種類に合わせた取り扱い方法を理解し、適切に管理する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 薬物療法の目的 2. 薬が作用する仕組み 1) 薬理作用の基本形式 2) 薬の治療域と作用点 3) 投与経路 4) 服薬時間と適用 3. 薬の吸収と排泄 4. 医薬品の適正な使用方法 5. 薬の管理と法令 1) 医薬品管理と取扱い ①毒薬、劇薬、麻薬の管理 ②血液製剤の管理 ③ワクチン製剤の管理 2) 法令 6. 薬物の種類・作用副作用・留意点 7. 薬剤管理	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 古川裕之他：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学、メディカ出版

<科目名> 看護概論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護を学ぶ第一歩として、看護学の基盤となる主な概念を学び、看護の対象となる人とその生活を理解するとともに、看護活動を提供するための場と仕組み及び看護専門職の役割・機能を学習する。

<目的> 看護の基本となる概念及び機能と役割を学ぶ。

<目標>

1. 看護の歴史・変遷と看護の概念、定義を理解する。
2. 看護の対象となる人間とその生活を通して、看護の主要概念及び看護理論を理解する。
3. 看護活動を提供する場と仕組み、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
4. 看護者に求められる倫理を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 看護の本質 1) 看護の変遷、原点、歴史 2) 看護の定義 2. 看護における主要概念(メタパラダイム)人間・健康・環境・看護 1) 人間とは 2) 健康とは 3) 環境とは 4) 看護とは 3. 看護提供のしくみ 1) 看護サービス提供の場 2) 継続看護 3) 看護をめぐる制度と政策 4. 看護における倫理	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]、看護学概論、医学書院
2. フローレンスナイチンゲール(薄井担子訳)：看護覚え書き、現代社
3. 日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集、日本看護協会出版会

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅱの履修条件である。

<科目名> 基礎看護技術 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

看護の視点から、対象の身体状態を客観的かつ正確に把握する。また、身体情報の収集の仕方を知り、その解釈について学習する。

<目的> 看護技術の実践に必要な目的および手段を学ぶ。

<目標>

1. フィジカルアセスメントの意義を理解する。
2. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。
3. フィジカルイグザミネーションを実施する。
4. フィジカルアセスメントを活用する意義を見出す。
5. バイタルサインを測定することの意義を理解する。
6. バイタルサインの測定に必要な基礎的知識を理解する。
7. バイタルサイン測定を実施する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. フィジカルアセスメントとは 2. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2) 循環器系のフィジカルアセスメント 3) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 4) 腹部のフィジカルアセスメント 5) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 6) 神経系のフィジカルアセスメント 7) 頭部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント 8) 外皮系のフィジカルアセスメント 3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識 4. 計測に関する基礎知識 身長・体重	30 時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院
2. 任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院
3. 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習 II の履修条件である。



<科目名> 基礎看護技術Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに、誰もが営む日常的な行為である。

なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力でできなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、食事・排泄の意義や原則を理解し、基礎的な援助技術を身につける。また、演習での模擬体験を通し、どのような配慮が必要なのかを学習する。

<目的> 対象の食事・排泄に対する欲求を満たすための知識・技術・態度を学ぶ。

<目標>

1. 食事・排泄の意義を理解する。
2. 食事・排泄の援助を受ける対象を理解する。
3. 食事・排泄に対する看護技術を理解する。
4. 食事・排泄に対する看護技術を実施する。
5. 食事・排泄に対する看護技術を習得する意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 人間にとっての食事の意義 2. 食事援助の基礎知識 3. 食事の援助を受ける対象の特徴 4. 食事の援助 食事介助（嚥下障害のある患者を除く） 5. 摂食・嚥下訓練 6. 非経口的栄養摂取の援助 7. 人間にとっての排泄の意義 8. 自然排尿および自然排便の基礎知識 9. 排泄の援助を受ける対象の特徴 10. 排泄の援助 排泄援助（床上、ポータブルトイレ） 11. 自然排尿ができない場合の排泄援助方法 導尿・膀胱留置カテーテルの挿入・管理 12. 排便を促す援助 浣腸・摘便 13. ストーマケア	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅲの履修条件である。

<科目名> 基礎看護技術Ⅲ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

活動・休息に対する欲求は人間の基本的欲求であり健康的な日常生活行動を促進する上で重要である。また、呼吸・体温は人間の生命の維持に必要不可欠である。活動・休息・呼吸・体温の意義や原則を理解し、基礎的な援助技術を身につける。また、演習での模擬体験を通じ、どのような配慮が必要なのか学習する。

<目的> 対象の活動・休息・呼吸・体温に対する欲求を満たすための知識・技術・態度を学ぶ。

<目標>

1. 活動・休息・呼吸・体温の意義を理解する。
2. 活動・休息・呼吸・体温の援助を受ける対象を理解する。
3. 活動・休息・呼吸・体温に対する看護技術を理解する。
4. 活動・休息・呼吸・体温に対する看護技術を実施する。
5. 活動・休息・呼吸・体温に対する看護技術を修得する意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 人間にとっての活動の意義 2. 活動の援助を受ける対象 3. 基本的活動の援助 1) 体位変換・保持 2) 安楽な体位の調整 3) 歩行・移動介助 4) 移乗介助 5) 車いすでの移送 6) ストレッチャー移送 4. 人間にとっての休息の意義 5. 休息の援助を受ける対象 6. 睡眠・休息の援助 精神的安寧を保つためのケア 7. 人間にとっての呼吸の意義 8. 呼吸の援助を受ける対象 9. 呼吸の援助 体位ドレナージ ネブライザーを用いた気管内加湿 10. 人間にとっての体温調節の意義 11. 体温調節の援助を受ける対象 12. 体温管理の技術 体温調節の援助	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅲの履修条件である。

<科目名> 基礎看護技術Ⅳ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

身体と寝衣の清潔が保たれることは、どのような健康や障害の状態・発達段階にあっても人間の基本的な欲求である。人間の健康的な生活に不可欠な清潔・衣生活の意義や原則を理解し、基礎的な援助技術を身につける。また、演習での模擬体験を通し、どのような配慮が必要なのかを学習する。

<目的> 対象の清潔・衣生活に対する欲求を満たすための知識・技術・態度を学ぶ。

<目標>

1. 清潔・衣生活の意義を理解する。
2. 清潔・衣生活の援助を受ける対象を理解する。
3. 清潔・衣生活に対する看護技術を理解する。
4. 清潔・衣生活に対する看護技術を実施する。
5. 清潔・衣生活に対する看護技術を習得する意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 人間にとっての清潔の意義 2. 清潔の援助を受ける対象 3. 清潔の援助 1) 入浴・シャワー浴の介助 2) 清拭 3) 洗髪 4) 足浴・手浴 5) 陰部の保清 6) オムツ交換 7) 整容 8) 口腔ケア 4. 人間にとっての衣生活の意義 5. 衣生活の援助を受ける対象の特徴 6. 衣生活の援助 1) 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 2) 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅲの履修条件である。

<科目名> 基礎看護技術Ⅴ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

人間にとっての環境の意義を学習する。また、環境が人間に及ぼす影響を踏まえて、健康的で快適な環境を作る必要性と環境を整える方法を学習する。また感染防止のための知識・技術を学び、正しく実践する方法を学習する。

<目的> 対象の環境に対する欲求を満たすための看護の方法を学ぶ。

<目標>

1. 環境の意義を理解する。
2. 感染防止の意義を理解する。
3. 環境の援助を受ける対象を理解する。
4. 環境に対する看護技術を理解する。
5. 環境に対する看護技術を実施する。
6. 環境に対する看護技術を習得する意義を見いだす。
7. 感染防止の看護技術を理解する。
8. 感染防止の看護技術を実施する。
9. 感染防止の看護技術を習得する意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 環境調整技術 2. 環境の援助を受ける対象 3. 援助の実際 1) 患者にとって快適な療養環境の整備 2) 臥床患者のリネン交換 4. 感染防止の技術 1) スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い 2) 必要な防護用具（手袋・マスク・ゴーグル・ガウン等）の選択・着脱 3) 使用した器具の感染防止の取り扱い 5. 感染経路予防対策 6. 洗浄・消毒・滅菌 7. 無菌操作 8. 感染性廃棄物の取り扱い	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ、医学書院
2. 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅱの履修条件である。

<科目名> 看護リフレクション演習Ⅰ

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

看護師として自己の看護実践を向上させるためには、日々の看護場面での行為や対話の中での気づきに注目する必要がある。その気づきをもとにリフレクションを行い、自己の行動や反応を振り返り次の看護につなげていく。本講義では実践場面を用いてリフレクションの方法を学習する。

<目的> 看護実践を通して、リフレクションの方法と意義を学ぶ。

<目標>

1. リフレクションの目的と方法を理解する。
2. 実践場面を用いてリフレクションを実践する。
3. 繰り返しのリフレクションが、対象に合った看護実践につながることに気づく。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. リフレクションとは 1) 目的 2) 看護職にとってリフレクションをする意義 3) リフレクションの種類と方法 ①ギブスのリフレクティブ・サイクル ②プロセスレコード ③カンファレンス 2. 各リフレクションの実践 1-3) の3つの方法を事例に合わせて実践、活用	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト> なし

<履修条件>

本科目の単位認定は、看護リフレクション演習Ⅱ、基礎看護実習Ⅱの履修条件である。

<科目名> 看護の思考と臨床判断

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護を展開するための基本となる考え方とその展開方法を学ぶ。科学的、論理的に看護を展開するための思考過程を学習する。この知識を活かして看護過程を展開し、臨床判断能力を養う。

<目的> 看護上の問題を解決するための思考過程を学ぶ。

<目標>

1. 看護実践の基盤となる考え方を理解する。
2. 看護過程の構成要素を理解する。
3. 看護を実践するための思考過程が理解できる。
4. 事例展開をとおして、臨床判断能力の必要性を受容する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 看護の思考とは 2. 看護過程 1) 看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決過程 ②クリティカルシンキング ③リフレクション ④臨床推論と臨床判断 2) 5つの構成要素 ①アセスメント ②看護診断 ③計画立案 ④実施 ⑤評価 3. 看護過程の展開 1) アセスメントの枠組みの利用 ヘンダーソンの看護理論 2) 全体像の把握 関連図 看護過程の展開	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ、医学書院
2. ヴァージニアヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会

<履修条件>

本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅲの履修条件である。

<科目名> 臨床看護方法論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

各期の健康段階に応じた対象の特徴を学ぶ。診察・検査・治療を受ける患者を設定し、その事例を通して健康障害を持つ対象と状況に応じた看護援助方法を学習する。

<目的> 健康障害を持つ対象を理解し、健康段階や状況に合わせた看護を学ぶ。

<目標>

1. よりよい看護を提供するための臨床の場、対象を理解する。
2. 診察・検査・治療を受ける患者への看護を理解する。
3. 入院時の看護を理解する。
4. 事例をとおして、症状に合わせた看護を理解する。
5. 健康段階に応じて対象を支えるための看護の方法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 臨床の場、対象の理解 1) 療養の場としての病院 2) 療養の場としての在宅 3) 療養の場としての地域 2. 診察を受ける患者への看護 1) 診察の目的 2) 診察を受ける患者の理解(身体的・心理的・社会的) 3) 診察時の看護 外来看護師の役割 4) 検査における看護師の役割 5) 治療の種類と看護師の役割 3. 入院時の看護 1) 入院の目的 2) 入院する患者の理解(身体的・心理的・社会的) 3) 入院時の看護 4. 症状に合わせた看護 1) 日常生活が障害されること 2) 日常生活を整える 5. 健康段階に応じた看護 1) 健康障害のレベルとしての経過とは 2) 健康期(健康保持・増進) 3) 急性期 4) 回復期 5) 慢性期 6) 終末期	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト> なし

<履修条件> なし

<科目名> 成人看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

成人期にある人を生活者として理解し、看護学の対象理解のため、ライフサイクルと発達課題、成人各期の特徴を学ぶ。成人期にある人を取り巻く環境から生じる健康問題や、健康に対する多様な価値観に気付き、健康課題の達成および健康を支援するための看護の役割を学習する。

<目的> 成人看護の概念及び特性と役割を学ぶ。

<目標>

1. 成人の特徴を理解する。
2. 成人を取り巻く社会の状況を理解する。
3. 成人看護の役割を理解する。
4. 成人看護で基本となる理論と概念を理解する。
5. 成人を取り巻く家族の状況を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 成人の特徴 1) 成人の定義 2) 成人の生活から見る身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人を取り巻く社会の状況 1) 成人の健康の状況 2) 成人の健康の保持増進のための施策、制度、法律 3. 成人看護の役割 1) 成人看護の特性 2) ヘルスプロモーション 3) 症状マネジメント 4) 行動変容 4. 成人看護で基本となる理論と概念 1) 生涯発達の特徴 2) 発達課題と危機 3) 家族の発達課題 5. 成人を取り巻く家族の状況 1) 家族形態と機能 2) 家族の多様性	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 小松浩子編：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。



<科目名> 成人看護方法論 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

成人期にある対象の健康段階にみられる特徴的な身体・精神・社会的特徴と看護を学習する。

<目的> 成人期の様々な健康段階に合わせて対象の特徴を知り、看護の方法を学ぶ。

<目標>

1. 健康期にある成人の看護を理解する。
2. 急性期にある成人の看護を理解する。
3. 回復期にある成人の看護を理解する。
4. 慢性期にある成人の看護を理解する。
5. 終末期にある成人の看護を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 健康期の成人への看護 1) 健康な成人の特徴 2) 健康期の看護に必要な理論 3) 健康期にある成人の看護	6 時間	学内教員
2. 急性期にある成人への看護 1) 急性期の成人の特徴 2) 急性期の看護に必要な理論 3) 急性期にある成人への看護	6 時間	
3. 回復期にある成人への看護 1) 回復期の成人の特徴 2) 回復期の看護に必要な理論 3) 回復期にある成人への看護	6 時間	
4. 慢性期にある成人への看護 1) 慢性病を持つ成人の特徴 2) 慢性期の看護に必要な理論	6 時間	
5. 終末期にある成人の看護 1) 終末期の成人の特徴 2) 終末期の看護に必要な理論と概念 3) 終末期にある成人への看護	6 時間	

<評価> 筆記試験、課題提出

<テキスト>

1. 小松浩子：系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。

<科目名> 老年看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

高齢者の生活を発達課題から考えるとともに、老いにおける多様性を理解する。また、高齢者を取り巻く家族や地域社会との関係性と社会システムについて理解する中から、老年看護の機能と役割を学習する。

<目的> 高齢者の特徴を理解し、老年看護の役割を学ぶ。

<目標>

1. 老年看護の概要を理解する。
2. 老年期にある人の発達課題と健康問題について、加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化と特徴を理解する。
3. 超高齢社会と高齢者における社会保障を理解する。
4. 高齢者の倫理的課題と権利擁護を理解する。
5. 老年看護の機能と役割、責任について理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 老年看護の概要 1) 老年看護を学ぶ意義 2) 「老いる」ということ 3) 社会の老年観 4) 老年看護の歴史 2. 老年期の理解 1) 身体的加齢変化 2) 心理的加齢変化 3) 社会的加齢変化 4) 発達理論と発達課題 5) 高齢者の健康問題 3. 超高齢社会と社会保障 1) 超高齢社会の現状 2) 高齢者と家族	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習、老年看護実習の履修条件である。

<科目名> 小児看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

子どもは成長・発達していく存在であり、子どもが社会の中で健康な成長・発達する権利を理解し、その子どもの成長・発達を支える小児看護の役割を学習する。

<目的> 子どもの特徴と取り囲む社会の現状を知り、子どもの成長・発達を支える看護の役割と機能を学ぶ。

<目標>

1. 子どもの特徴を理解する。
2. 子どもの成長・発達を支える政策・制度・法律を理解する。
3. 子どもの成長・発達を支える小児看護の役割と機能を理解する。
4. 小児における発達理論を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 子どもの定義 2. 子どもと家族の諸統計 3. 小児と家族を取り巻く社会 4. 子どもの成長・発達を支える政策・制度・法律 5. 小児看護の変遷 6. 小児看護の機能と役割 7. 小児看護における倫理 8. 現代の小児看護と課題 9. 小児看護における発達理論	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 奈良間美保：小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、小児看護実習の履修条件である。

<科目名> 母性看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

女性を取り巻く社会の現状をふまえ、女性が自身の健康と望む生活を送るために必要な基盤を知り、母性看護の根幹となる概念・理論および母性看護における倫理的課題を認識したうえで、看護実践することの重要性を学ぶ。

<目的> 母性看護の対象を取り巻く社会の現状と母性看護の概要を学ぶ。

<目標>

1. 母性看護の対象と実践内容を理解する。
2. 母性看護の基盤となる概念・理論を理解する。
3. 母性看護の対象を取り巻く社会の現状を理解する。
4. 母性看護における倫理的課題を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 母性看護の対象を取り巻く社会の現状 1) 母子保健統計とその推移 2) 母性看護に関わる指標 3) 母性看護に関する法律・制度・施策 2. 母性看護の対象と実践内容 3. 母性看護の基盤となる概念・理論 4. 母性看護における倫理的課題	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、母性看護実習の履修条件である。

<科目名> 精神看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

精神看護の概念、目的、機能と役割を学び、その人らしい暮らしができるよう看護支援するための基礎を学習する。

<目的> 精神看護実践の土台となる考え方を学ぶ。

<目標>

1. 精神看護の概念を理解する。
2. 精神看護の目的、機能と役割を理解する。
3. 精神看護の基礎となる患者－看護師関係を理解する。
4. 精神保健医療福祉の歴史から倫理の重要性を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 精神看護概論で学ぶこと 2. 精神医療・看護の対象者 1) 精神障害者の体験 2) 精神障害とは 3. 精神看護とは 1) 精神看護の目的、機能と役割 2) 精神障害をもつ人との患者－看護師関係 4. 精神保健医療福祉における歴史 1) 諸外国における精神保健医療福祉の歴史 2) 日本の精神保健医療福祉の歴史 5. 精神看護における倫理と人権擁護	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
2. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、精神看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護の基礎 I

<単位・時間> 1 単位・15 時間

<科目の概要>

地域に住まう人々の暮らしに影響する因子に着目し、それらの因子によって変化する暮らしの実際に触れ、暮らしにおける選択と自己決定がその人らしい暮らしと健康をかたちづくることに気づくための学習をする。そして、地域の環境が暮らしと健康にどのように関わっているのかを学習する。

<目的> 地域に住まう人々の暮らしと健康に影響する因子を理解し、暮らしと健康の捉え方を学ぶ。

<目標>

1. 暮らしと健康に影響する因子を理解する。
2. その人らしい暮らしと健康を理解する。
3. 地域環境と人々の暮らし・健康との関係性を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時配	担当
1. 暮らしと健康に影響する因子 2. 地域の環境が暮らし・健康に与える影響 3. その人らしい暮らしと健康	15 時間	学内教員

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メデイカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。

## 学習内容（2年次配当科目）

科目名	単位	時間	ページ
英語	1	30	54
異文化論	1	15	55
教育学	1	30	56
創造と芸術	1	15	57
健康スポーツ学	1	30	58
看護関係法規	1	15	59
公衆衛生	1	30	60
高度医療	1	30	61
生命医療倫理	1	30	62
基礎看護技術VI	1	30	63
看護リフレクション演習Ⅱ	1	15	64
看護研究の基礎	1	30	65
成人看護方法論Ⅱ	1	30	66
成人看護方法論Ⅲ	1	30	67
成人看護方法論Ⅳ	1	30	68
成人看護技術論	1	30	69
老年看護方法論	1	30	70
老年看護技術論Ⅰ	1	30	71
老年看護技術論Ⅱ	1	30	72
小児看護方法論Ⅰ	1	30	73
小児看護方法論Ⅱ	1	30	74
小児看護技術論	1	30	75
母性看護方法論Ⅰ	1	30	76
母性看護方法論Ⅱ	1	30	77
母性看護技術論	1	30	78
精神看護方法論Ⅰ	1	30	79
精神看護方法論Ⅱ	1	30	80
精神看護技術論	1	30	81
地域・在宅看護の基礎Ⅱ	1	15	82
地域・在宅看護概論	1	15	83
地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	84
地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	85
地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30	86
医療安全	1	15	87
災害・国際看護	1	15	88
基礎看護実習Ⅲ	1	45	実習要項
基礎看護実習Ⅳ	1	45	実習要項
合計	37	1020	

<科目名> 英語

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護師は看護の対象や多職種連携の中で外国人と接する機会がある。本科目においては、看護場面での英会話を学習する。また、解剖学的用語、疾患・検査・治療用語を英語で学び、英文での医療情報を活用できるよう学習する。

<目的> 医療現場に必要な英会話能力を身につけ、看護に必要な医学英語を学ぶ。

<目標>

1. 看護に必要な基礎的な医学用語を理解する。
2. 看護場面において必要な基礎的な語句・表現を理解する。
3. 看護場面における英会話能力を身につける。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 日常的な英会話 2. 医学英語 1) 解剖学的用語 2) 症状、疾患名、検査、治療用語 3. 看護場面での英会話 1) 入院場面 2) 外来受診場面 3) 治療、検査の説明場面	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. Speaking of Nursing 南雲堂



<科目名> 異文化論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

時代、年代、地域、宗教的価値観などによりそれぞれ特有の文化が生まれ、グローバル化により人々は多様な生活・文化、価値観を持つ。多様化している看護の対象をより深く理解し受け入れるために学習する。

<目的> さまざまな生活・文化、価値観を知り、多様な価値観を学ぶ。

<目標>

1. 多様な生活・文化・価値観を知り、人間理解を深める。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 文化の違い 1) 地域による文化の違い 2) 時代による文化の違い 3) 年代による文化の違い 4) 宗教による文化の違い 2. ジェンダーと文化 3. グローバル化と文化	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト> なし

<科目名> 教育学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護師はさまざまな疾患・障害を持ちながら暮らす人が多くいる中で患者教育・指導を担う。看護の教育的機能を果たすために、教育の基礎を学習する。また、キャリア形成、生涯学習についても学習する。

<目的> 看護の教育的機能を果たすために必要な教育学の基礎的知識を学ぶ。また、キャリア形成、看護師の生涯学習についての基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 教育の目的・方法を学び、看護に活かす基礎的な知識を理解する。
2. 教育をめぐる課題について理解する。
3. 看護における学びの必要性に気づきを示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 教育とは 2. 教育の目的 3. 人を教えるということ 4. 教育の目標・方法・評価 5. 特別な配慮・支援を要する人への教育 6. 看護における教育的関わり 7. キャリア形成と看護師の生涯学習	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト> なし

<科目名> 創造と芸術

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

看護師は自己の高い志と他を思いやる心が必要である。看護の対象をより理解する必要もある。

芸術に触れ、個々の価値観や感性を高めるために学習する。

<目的> 自己の感性を磨き、他の価値観を認める心を養う。

<目標>

1. 芸術に触れ、自己の感性や価値観を価値づける。
2. 芸術、文化に触れ、他者の存在や価値観を受容する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 芸術鑑賞 映画鑑賞か舞台鑑賞、美術館等の展示鑑賞 鑑賞後のディスカッション 2. 創作活動 フラワーアレンジメントや絵手紙などの創作 創作したものの鑑賞 3. 講演 体験談などの講演を聴く 4. 手話や点字などの非言語的コミュニケーションの体験 ※上記いずれかの内容を行う。	15時間	外部講師

<評価> 課題提出

<テキスト> なし

<科目名> 健康スポーツ学

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

人間にとってのレクリエーションの意義を踏まえ、看護の対象にレクリエーションを提供するための企画や方法について学習する。また、ストレスや生活習慣病等の健康問題におけるスポーツの役割と効果、方法について学習する。

<目的> 健康の保持・増進とレクリエーションおよびスポーツの関連を学ぶ。

<目標>

1. レクリエーションの意義と方法を理解する。
2. 健康づくりのための、スポーツの意義と方法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. レクリエーションの意義 2. レクリエーションの企画・実施 3. 健康づくりにおけるスポーツの意義 4. 健康づくりのためのスポーツの実際	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験・レポート

<テキスト> なし

<科目名> 看護関係法規

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

保健・医療・福祉分野の活動の基盤となる法規を学習する。専門分野、基礎専門分野の各科目でも関連する法規を学習するため、ここでは「医療法」「保健師助産師看護師法」「看護師等の人材確保の促進に関する法律」について学習する。

<目的> 医療および看護業務を法的側面から理解する基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 法規の概念を理解する。
2. 保健医療に関する法規を理解する。
3. 看護業務における法的責任を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 法規の意義 1) 法の概念 2) 衛生法の概念 2. 保健医療に関する法規 1) 医療法 2) 保健師助産師看護師法 3) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 3. 看護業務の法的責任 1) 業務範囲を守る業務 2) 看護師が行うことのできる（またはできない）医行為 3) 守秘義務 4) 医療過誤	15時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 森山幹夫：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令、医学書院
2. 日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集、日本看護協会出版会

<科目名> 公衆衛生

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

公衆衛生は、集団の疾病を予防し、心身の健康維持を図ることを目的としている。本科目は、公衆衛生の概念と対象、仕組みを学び、感染症と予防対策や地域における公衆衛生の実際を学習する。

<目的> 地域保健の基盤となる公衆衛生の基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 公衆衛生活動の歴史および公衆衛生の基盤を理解する。
2. 公衆衛生の機能や役割、しくみを理解する。
3. 人々の生活・健康と地域との関わりを理解する。
4. 公衆衛生看護の対象とコミュニティや場を理解する。
5. 我が国の公衆衛生の経験を活かした国際協力のあり方を理解する。
6. 公衆衛生活動と法的根拠を結びつけて理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 公衆衛生とは何か 1) 公衆とは何か 2) ヘルス（衛生・健康）とはなにか 3) 日本と世界の公衆衛生の歴史 4) ヘルスプロモーション 5) 健康づくりのための予防活動 2. 公衆衛生の活動対象 3. 公衆衛生のしくみ 1) 政策展開 2) 国と地方自治体の役割 3) 専門職のはたらき 4) 多職種との連携・協働 5) 住民との協働 4. 疫学・保健統計 5. 環境と健康 6. 感染症とその予防策 1) 感染症とその予防策の基礎知識 2) 我が国の感染予防対策 3) 院内感染とその予防 4) 公衆衛生上の重要な感染症とその予防 7. 国際保健 8. 地域における公衆衛生の実践 9. 学校・職場と健康 10. 災害保健	30時間	外部講師

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 神馬征峰：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生、医学書院
2. 森山幹夫：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令、医学書院
3. 厚生統計協会編：国民衛生の動向 厚生の指標 臨時増刊、厚生統計協会

<科目名> 高度医療

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

進歩しつづける医療技術に伴い、看護もより高度で幅広いスキルが看護師に求められている。そのために、高度な看護技術と知識を学習し、より専門性の高い看護を展開する礎とする。

<目的> 高度な医療に対応するための基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 救急における看護師の役割を理解する。
2. 救急における看護技術を理解する。
3. 生命危機状態にある対象への緊急時の対応を理解する。
4. 医療機器の取り扱い方と注意事項を理解する。
5. 医療機器を例に倣って実施する。
6. 輸血療法、化学療法、放射線療法の方法と看護師の役割を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 救命救急	4時間	外部講師
1) 救命救急を要する対象と観察の視点		
2) 緊急時の対応		
3) 心肺蘇生法の実際		
4) 救急看護の対象の理解	6時間	学内教員
5) 救急看護体制と展開		
6) 救急を要する患者のアセスメント		
2. 救急看護技術		
1) 救急看護を必要とする対象の観察とアセスメント		
2) 創傷管理技術		
3) 救命救急処置技術		
3. ME機器	6時間	外部講師
1) 輸液ポンプの基本的な取り扱いと注意事項		
2) シリンジポンプの基本的な取り扱いと注意事項		
3) 人工呼吸器の基本的な取り扱いと注意事項、看護の役割		
4) 酸素ポンベの基本的な取り扱いと注意事項	4時間	学内教員
5) パルスオキシメーターの基本的な取り扱いと注意事項		
4. 輸血療法	10時間	学内教員
5. 化学療法		
6. 放射線療法		
1) 目的と適応、種類、方法		
2) 看護師の役割		
3) 観察と注意事項（放射線暴露）		
4) 副作用		

<評価> 筆記試験

<テキスト>

1. 小坂樹徳編：新体系看護学全書 別巻 治療法概説、メヂカルフレンド社
2. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院
3. 任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<科目名> 生命医療倫理

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

医療技術の進歩により、生命および医療倫理に関わる問題が多様化してきている。倫理的概念および倫理的な考え方を学習し、倫理的感性を養う。

<目的> 生命・医療における倫理的概念および倫理的な考え方を学ぶ。

<目標>

1. 医療倫理の4原則及び重要概念を理解する。
2. 倫理的検討法を理解し、倫理的思考を身につける。
3. 倫理的問題に関する日本の課題とその対処法を知る。
4. 看護師の専門職倫理について理解する。
5. 医療専門職者としての倫理的行動を考察する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 生命・医療倫理とは 2. 医療倫理の原則と重要概念 1) 医療倫理の4原則 2) パターナリズム 3. 人間の生命に対する尊厳及び患者の権利に関する事例の検討 4. 看護師としての倫理的行動 5. 倫理的問題に関する日本の課題とその対処法 1) 臨床場面で直面する倫理的問題 2) 法規・ガイドラインの現状と課題 3) 組織的な検討及び解決方法	20時間	外部講師
6. 看護職の専門職倫理について 1) 社会から見た看護 2) 専門職に求められる倫理 3) 専門職の倫理綱領 ①ICN 看護師の倫理綱領 ②看護者の倫理綱領（日本看護協会） 4) 保健師助産師看護師法と倫理 7. 臨床症例の倫理的検討法	10時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集、日本看護協会出版会



<科目名> 基礎看護技術VI

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

薬物療法を安全かつ確実に実施する方法を学習する。演習を通し、安全で確実な援助技術に必要な基本的事項を確認する。

<目的> 薬物療法における役割を理解し、与薬時の援助に必要な基礎的知識・援助技術を学ぶ。

<目標>

1. 薬物療法における看護師の役割について理解する。
2. 与薬に必要な基礎的知識を理解する。
3. 与薬の援助技術を理解する。
4. 与薬の援助技術を実施する。
5. 与薬の援助技術を習得する意義を見いだす。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 薬物療法における看護の意義 2. 与薬の基礎知識 3. 経口薬（バツカル錠・内服薬・舌下錠）の投与 4. 吸入 5. 点眼 6. 点鼻 7. 経皮的与薬 経皮・外用薬の投与 8. 直腸内与薬 座薬の投与 9. 注射 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射 4) 静脈路確保・点滴静脈内注射 5) 点滴静脈内注射の管理 6) 静脈内採血、検体（血液）の取り扱い 静脈内採血、検体（血液）の取り扱い、針刺し事故の防止・事故後の対応	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院

<履修条件> なし

<科目名> 看護リフレクション演習Ⅱ

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

状況に合わせた看護実践を行いその場面をリフレクションし、次に類似した状況に遭遇した時に自分自身がどのように行動したらよいかを考える一連のプロセスを学習する。さらにリフレクションをくり返すことで看護実践の質や自己のスキルの向上につなげる方法を学習する。

<目的> 実践に潜む価値や意味を見だし、実践の質の向上に繋げる方法を学ぶ。

<目標>

1. リフレクションを通して、自己の看護実践をよりよくする方法を知る。
2. リフレクションによって得られた考えをもとに新たな行動を実践する。
3. 看護の実践場面を通して、体験の意味と自己の課題に気づきを示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 事例を用いた看護実践・リフレクション 1) グループ毎に援助計画を検討し、実践・リフレクションを行う。 ・一連の看護実践とリフレクションを通じた学び	15時間	学内教員

<評価> 提出課題

<テキスト> なし

<履修条件>

1. 看護リフレクション演習Ⅰの単位を取得している。
2. 本科目の受験資格が、基礎看護実習Ⅲの履修条件である。
3. 本科目の単位認定は、基礎看護実習Ⅳの履修条件である。

<科目名> 看護研究の基礎

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護における研究の意義と必要性、研究を実施するための一連のプロセスについての基礎的知識を学習する。看護研究をもとに、よりよい看護実践の実現や看護の質向上ができるよう、研究の基礎を学習する。

<目的> 研究の科学的なプロセスを学ぶ。また看護研究の意義や目的を理解する。

<目標>

1. 看護研究の目的と意義を理解する。
2. 看護研究の種類と特徴を理解する。
3. 看護研究の実施の流れを理解する。
4. 看護研究のクリティークについて理解する。
5. 看護研究における基本的人権と倫理上の原則を理解する。
6. 看護師として研究に取り組む必要性に気づく。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 看護研究の意義・目的・看護研究の歴史 1) 研究とは何か、看護研究とは何か 2) 看護研究の歴史 2. 看護研究のはじめ方 3. 情報の探索と吟味 1) 情報と科学的な根拠 2) 文献とその種類 3) 文献検索の方法 4. 研究における倫理的配慮 1) 研究における倫理的配慮の原則 2) 看護職と研究倫理 5. 研究デザインー研究の設計と方法の選択ー 6. データの収集 7. データの分析 8. 研究計画書の作成 9. 研究を伝える 1) 研究成果をまとめる 2) 研究成果を伝える 10. ケーススタディの作成 1) 原著論文の作成 11. 看護職の研究への取り組み	30時間	学内教員

<評価> 提出課題

<テキスト>

1. 坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、ケーススタディの履修条件である。

<科目名> 成人看護方法論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

呼吸、循環、血液・造血器、免疫機能障害による日常生活への影響、これらの機能障害をもつ対象への看護の方法を学習する。

<目的> 機能障害が及ぼす影響と看護の方法を学ぶ。

<目標>

1. 呼吸、循環、血液・造血器、免疫機能が障害されたときの日常生活への影響を理解する。
2. 呼吸、循環、血液・造血器、免疫機能が障害された対象への検査・療法に対する看護を理解する。
3. 呼吸、循環、血液・造血器、免疫機能が障害された対象に生じる症状とアセスメントの視点を理解する。
4. 呼吸、循環、造血、免疫機能障害の代表的な疾患に対する看護の方法を習得する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 呼吸機能障害のある対象の看護 1) 呼吸機能障害のあることでの日常生活への影響 2) 呼吸機能障害がある対象の看護 3) 観察される呼吸機能障害の症状とアセスメント	12時間	学内教員
2. 循環機能障害のある対象の看護 1) 循環機能障害のあることでの日常生活への影響 2) 循環機能障害がある対象の看護 3) 観察される循環機能障害の症状とアセスメント	10時間	
3. 血液・造血・免疫機能障害のある対象の看護 1) 血液・造血・免疫機能障害のあることでの日常生活への影響 2) 観察される血液・造血・免疫機能障害の症状とアセスメント 3) 血液・造血・免疫機能障害がある対象の看護 4) 免疫機能の障害があることでの日常生活への影響 5) 観察される免疫機能障害の症状とアセスメント 6) 免疫機能障害がある対象の看護	8時間	

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 朝倉啓介他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器、医学書院
2. 吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器、医学書院
3. 飯野京子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器、医学書院
4. 岩田健太郎他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病感染症、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。

<科目名> 成人看護方法論Ⅲ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

栄養代謝機能、消化・吸収、排泄、性・生殖機能障害による日常生活への影響、これらの機能障害をもつ対象への看護の方法を学習する。

<目的> 機能障害が及ぼす影響と看護の方法を学ぶ。

<目標>

1. 栄養代謝機能、消化・吸収、排泄、性・生殖機能が障害されたときの日常生活への影響を理解する。
2. 栄養代謝機能、消化・吸収、排泄、性・生殖機能が障害された対象への検査・療法に対する看護を理解する。
3. 栄養代謝機能、消化・吸収、排泄、性・生殖機能が障害された対象に生じる症状とアセスメントの視点を理解する。
4. 栄養代謝機能、消化・吸収、排泄、性・生殖機能障害の代表的な疾患に対する看護の方法を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 消化・吸収、排泄機能障害のある対象の看護 1) 消化・吸収機能障害があることでの日常生活への影響 2) 観察される消化・吸収障害の症状とアセスメント 3) 排泄機能障害がある対象の看護 4) 消化・吸収、排泄機能障害がある対象の看護	10時間	学内教員
2. 栄養代謝機能障害のある対象の看護 1) 肝機能障害があることでの日常生活への影響 2) 観察される肝機能障害の症状とアセスメント 3) 肝機能障害がある対象の看護 4) 糖代謝障害があることでの日常生活への影響 5) 観察される糖代謝障害の症状とアセスメント 6) 糖代謝機能障害を自己コントロールするための援助	16時間	
3. 性・生殖機能に障害のある対象の看護 1) 性・生殖機能障害、乳腺の疾患の日常生活への影響 2) 性・生殖機能障害、乳腺の疾患がある対象の看護 3) 性・生殖機能障害、乳腺の疾患の症状とアセスメント	4時間	

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 南川雅子他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器、医学書院
2. 伊波早苗他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝、医学書院
3. 伊澤由香他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器、医学書院
4. 末岡浩他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。

<科目名> 成人看護方法論Ⅳ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

内部環境調節、脳・神経、感覚、運動機能障害による生命・日常生活への影響、これらの機能障害をもつ対象への看護の方法を学習する。

<目的> 機能障害が及ぼす影響と看護の方法を学ぶ。

<目標>

1. 内部環境調節、脳・神経、感覚、運動機能が障害されたときの日常生活への影響を理解する。
2. 内部環境調節、脳・神経、感覚、運動機能が障害された対象への検査・療法に対する看護を理解する。
3. 内部環境調節、脳・神経、感覚、運動機能が障害された対象に生じる症状とアセスメントの視点を理解する。
4. 内部環境調節、脳・神経、感覚、運動機能障害の代表的な疾患に対する看護を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 内部環境調節機能障害のある対象の看護 1) 内分泌機能障害があることでの日常生活への影響 2) 観察される内分泌機能障害の症状とアセスメント 3) 内分泌機能障害がある対象の看護 4) 腎機能障害があることでの日常生活への影響 5) 観察される腎機能障害の症状とアセスメント 6) 腎機能障害がある対象の看護	10時間	学内教員
2. 脳・神経機能障害のある対象の看護 1) 脳・神経機能障害があることでの日常生活への影響 2) 観察される脳・神経機能障害の症状とアセスメント 3) 脳・神経機能障害がある対象の看護	8時間	
3. 感覚機能障害のある対象の看護 1) 感覚機能障害があることでの日常生活への影響 2) 観察される感覚機能障害の症状とアセスメント 3) 感覚機能障害がある対象の看護	4時間	
4. 運動機能障害のある対象の看護 1) 運動機能障害があることでの日常生活への影響 2) 運動機能障害がある対象の看護 3) 観察される運動機能障害の症状とアセスメント	8時間	

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 伊澤由香他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器、医学書院
2. 井手隆文他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経、医学書院
3. 永井由巳他：ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚、メディカ出版
4. 田中栄他：系統別看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器、医学書院

<履修条件> 本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。

<科目名> 成人看護技術論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態を情報収集・アセスメントし、その身体的・精神的・社会的特徴をふまえた看護計画・実践・省察を通して、成人看護を学ぶ。

<目的> 急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態に適した看護を学ぶ。

<目標>

1. 急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態把握のための看護を理解する。
2. 急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態をアセスメントする。
3. 急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態をふまえた看護計画を立案する。
4. 急性・回復・慢性・終末期にある成人の状態に適した看護を実施する。
5. 急性・回復・慢性・終末期にある成人に実施した看護を省察する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 急性期にある成人の看護 1) 急性期にある成人の状態把握のための看護 2) 急性期にある成人の状態アセスメント 3) 急性期にある成人の状態をふまえた計画立案 4) 急性期にある成人の状態に適した看護の実践 5) 急性期にある成人に実施した看護の省察	8時間	学内教員
2. 回復期にある成人の看護 1) 回復期にある成人の状態把握のための看護 2) 回復期にある成人の状態アセスメント 3) 回復期にある成人の状態をふまえた計画立案 4) 回復期にある成人の状態に適した看護の実践 5) 回復期にある成人に実施した看護の省察	8時間	
3. 慢性期にある成人の看護 1) 慢性期にある成人の状態把握のための看護 2) 慢性期にある成人の状態アセスメント 3) 慢性期にある成人の状態をふまえた計画立案 4) 慢性期にある成人の状態に適した看護の実践 5) 慢性期にある成人に実施した看護の省察	8時間	
4. 終末期にある成人の看護 1) 終末期にある成人の状態把握のための看護 2) 終末期にある成人の状態アセスメント 3) 終末期にある成人の状態をふまえた計画立案 4) 終末期にある成人の状態に適した看護の実践 5) 終末期にある成人に実施した看護の省察	6時間	

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 小松浩子：系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習Ⅰ～Ⅳの履修条件である。

<科目名> 老年看護方法論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

高齢者の健康障害の特徴を踏まえ、健康の段階に応じた看護や、老年期にある対象に生じやすい健康上の課題を解決・回避し、その人らしく生活のための支援方法を学習する。

<目的> 高齢者に特徴的な健康障害を理解し、その人らしい生活を維持する看護を学ぶ。

<目標>

1. 高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護を理解する。
2. 健康段階および治療を必要とする高齢者の看護を理解する。
3. 高齢者の生活・療養の場における看護を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護	20時間	学内教員
1) 老年症候群の予防と看護		
2) 褥瘡の予防と看護	4時間	外部講師
3) 認知機能障害の予防と看護	6時間	外部講師
2. 健康段階および治療を必要とする高齢者の看護		
1) 急性期および周術期にある高齢者の看護		
2) 回復期にある高齢者の看護		
3) 慢性期にある高齢者の看護		
4) 終末期にある高齢者の看護		
5) 検査を受ける高齢者の看護		
6) 薬物療法を受ける高齢者の看護		
7) リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
3. 高齢者の生活・療養の場における看護		
1) 高齢者のヘルスプロモーション		
2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護		
3) 高齢者の家族を支える看護		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習、老年看護実習の履修条件である。



<科目名> 老年看護技術論 I

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

老年期にある対象を生活者として捉え、生活行動上における健康課題を理解する。また、加齢変化が及ぼす生活への影響を理解し、高齢者の生活機能を整えるための援助方法を学習する。

<目的> 高齢者の生活機能を整える看護技術を学ぶ。

<目標>

1. 高齢者の日常生活を支える看護を理解する。
2. 高齢者の日常生活を支える看護を実施する。
3. 生活行動に援助が必要な高齢者の心情に気づきを示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 老年看護の展開における考え方 1) 生活場面を踏まえた高齢者の全人的理解 2) 目標志向型思考への転換 2. 高齢者の生活機能と評価 1) ICF生活機能評価 2) 高齢者総合機能評価 (CGA) 3) 基本的日常生活動作 (BADL) と手段的日常生活動作 (IADL) 4) 障害者の日常生活自立度<寝たきり度>判定基準 3. 高齢者の日常生活を支える看護援助 1) 高齢者の活動を支える看護 2) 高齢者の食事を支える看護 3) 高齢者の排泄を支える看護 4) 高齢者の清潔を支える看護 5) 高齢者の休息を支える看護 4. 高齢者のコミュニケーションを支える看護 1) 高齢者のコミュニケーションの特徴 2) 加齢変化による機能低下がもたらすコミュニケーションへの影響 3) 高齢者のコミュニケーションを支える看護援助	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習、老年看護実習の履修条件である。

<科目名> 老年看護技術論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

老年期にある対象に生じやすい健康上の課題を解決・回避し、その人らしく生活するための支援方法の実際を学ぶ。また、高齢者の生活や療養の場に応じた看護を、家族支援を含めて学習する。

<目的> 高齢者の特徴をいかし、その人らしい生活や療養するために必要な看護技術を学ぶ。

<目標>

1. 健康段階および治療を必要とする高齢者の看護を展開する。
2. 高齢者の生活・療養の場における看護を展開する。
3. 高齢者の特徴をいかした看護の必要性に気づきを示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 健康段階および治療を必要とする高齢者の看護展開	30時間	学内教員
2. 高齢者の生活・療養の場における看護展開		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 北川公子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、成人・老年看護実習、老年看護実習の履修条件である。

<科目名> 小児看護方法論 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

各発達段階の子どもの健康な成長・発達の特徴を捉え、健康な成長・発達を遂げるための子どもと家族への制度と必要な支援を学習する。

<目的> 各発達段階の子どもの健康な成長・発達の特徴をとらえ、その成長・発達を支える制度と必要な支援を学ぶ。

<目標>

1. 子どもの健康な成長・発達を促す支援を理解する。
2. 子どもの健康な成長・発達を促す制度を理解する。
3. 心理的・社会的支援が必要な子どもへの支援を理解する。
4. 地域における子ども・家族への支援を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 子どもの健康な成長・発達を支える支援 1) 各発達段階の成長・発達の特徴 2) 日常生活動作の獲得を促す支援 3) 発達段階をふまえた遊びの支援 4) 発達段階をふまえた教育の支援 2. 健康な成長・発達を促す制度 1) 母子保健 2) 学校保健 3) 児童福祉 3. 心理的・社会的支援が必要な子どもと家族への支援 1) 発達障害を持つ子どもと家族への支援 2) 虐待が存在する子どもと家族への支援 4. 地域における子どもと家族への支援 1) わが国における子育て支援の実際 2) 地域における子育て支援の実際	30 時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 奈良間美保：小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、小児看護実習の履修条件である。

<科目名> 小児看護方法論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

子どもに特徴的な疾患と治療を理解し、健康問題を抱える子どもと家族の各発達課題への影響をふまえ、その状況にある子どもと家族に合わせた看護を学習する。また、子どもの成長・発達に合わせた看護の展開を学習する。

<目的> 子どもに特徴的な疾患と治療の理解と健康問題を抱える子どもと家族の看護を学ぶ。

<目標>

1. 子どもに特徴的な疾患と治療を理解する。
2. 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。
3. 各健康段階にある子どもと家族の看護を理解する。
4. 子どもの成長・発達に合わせた看護の展開を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 子どもに特徴的な疾患と治療 1) 感染症 2) アレルギー疾患 3) 脳・神経疾患 4) 循環器疾患 5) 消化器疾患 6) 遺伝性疾患 7) その他	6時間	外部講師
2. 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響 1) 子どもへの影響 2) 家族への影響	24時間	学内教員
3. 各健康段階にある子どもと家族の看護 1) 健康期にある子どもと家族の看護 2) 急性・回復期にある子どもと家族の看護 3) 慢性期にある子どもと家族の看護 4) 終末期にある子どもと家族の看護		
4. 子どもの成長・発達に合わせた看護の展開		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 奈良間美保：小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院
2. 鴨下重彦他監修：こどもの病気の地図帳、講談社

<履修条件>

本科目の単位認定は、小児看護実習の履修条件である。

<科目名> 小児看護技術論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

子どもの発達段階に合わせた、成長・発達のアセスメントならびに治療・処置・検査に必要な看護技術を学習する。

<目的> 子どもの成長・発達を支える小児看護に必要な看護技術を修得する。

<目標>

1. 乳幼児の日常生活を支える技術を実施する。
2. 成長・発達のアセスメントに必要な技術を実施する。
3. 治療・検査を受ける子どもへの技術を実施する。
4. 子どもの安全を守る技術を実施する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 乳幼児の日常生活を支える技術 1)子どもの抱き方 2)衣服の着脱 3)食事の援助 4)玩具・絵本作成 2. 成長・発達のアセスメントに必要な技術 1)バイタルサイン測定 2)身体測定 3. 検査を受ける子どもへの技術 1)採血 2)採尿 3)骨髄穿刺 4)腰椎穿刺 4. 治療を受ける子どもへの技術 1)与薬 2)酸素療法 3)吸引 4)吸入 5)輸液管理 6)経管栄養 5. 子どもの安全を守る技術 1)子どもに起こりやすい不慮の事故と防止策	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 奈良間美保：小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院
2. 鴨下重彦他監修：こどもの病気の地図帳、講談社
3. 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でここまでわかる、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、小児看護実習の履修条件である。

<科目名> 母性看護方法論Ⅰ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

妊娠期・分娩期にある対象の特性をふまえ、対象の健康な妊娠および分娩を促すための看護を学ぶ。

<目的> 妊娠期・分娩期にある対象の特性と対象への看護を学ぶ。

<目標>

1. 妊娠期の身体的・精神的・社会的変化を理解する。
2. 妊娠期における看護を理解する。
3. 正常な分娩経過を理解する。
4. 分娩期における看護を理解する。
5. 妊娠・分娩期における異常とその看護を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 妊娠期の身体の仕組み	6時間	外部講師
2. 妊娠期における看護	12時間	外部講師
3. 正常な分娩の経過	4時間	外部講師
4. 分娩期における看護	8時間	外部講師

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、母性看護実習の履修条件である。

<科目名> 母性看護方法論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

産褥期にある対象と新生児の特性をふまえ、対象および児の健康を促し、対象とその家族が望む生活を送るために必要な看護を学ぶ。

<目的> 褥婦および新生児の経過をふまえた看護と退院後の看護を学ぶ。

<目標>

1. 正常な産褥経過における看護を理解する。
2. 褥婦および児に対する施設退院後の看護を理解する。
3. 正常を逸脱した産褥期の看護を理解する。
4. 正常な経過をたどる新生児期における看護を理解する。
5. 正常を逸脱した新生児の状態と看護を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 正常な産褥経過における看護	24 時間	外部講師
2. 施設退院後の看護		
3. 正常を逸脱した産褥期の看護	6 時間	学内教員
4. 正常な経過をたどる新生児期における看護		
5. 正常を逸脱した新生児の状態と看護		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学②、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、母性看護実習の履修条件である。

<科目名> 母性看護技術論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

ライフサイクル各期における女性の健康をふまえ、女性が自身の健康と望む生活を送るために必要な看護を知り、それを実践する手段としての看護過程を学ぶ。また、「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現に向けた子育てする女性とその家族への看護を学ぶ。

<目的> 各ライフサイクル期にある女性の健康への看護、及び子育てする女性とその家族への看護を学ぶ。

<目標>

1. 母性看護の対象者を理解する。
2. ライフサイクル各期における女性の健康と看護を理解する。
3. 子育てする女性とその家族への看護を理解する。
4. 母性看護における看護過程を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 母性看護の対象理解 2. ライフサイクル各期における女性の健康と看護 3. 子育てする女性とその家族への看護 4. 母性看護における看護過程	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①、医学書院
2. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、母性看護実習の履修条件である。



<科目名> 精神看護方法論 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

精神の健康と、人の発達と環境との相互作用により起こる精神保健上の問題を学び、法律、制度によるその支援をするための基礎を学習する。

<目的> 精神保健福祉領域において看護援助を行うための基礎的知識を学ぶ。

<目標>

1. 精神の健康の概念と精神の健康を保持・増進するための活動を理解する。
2. 家庭、学校、職場における精神保健上の問題について理解する。
3. 患者や医療者を対象に、医療の現場で必要となる精神看護を理解する。
4. 精神保健医療福祉にかかわる諸制度と支援を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 1) 精神保健のニーズの高まりを知る方法 2) 精神の健康の概念 3) 精神保健福祉活動を展開する方法 4) 精神の働きと人格の形成 5) 人の発達と発達上の危機に影響する事象 2. 精神障害を抱えて生きる人の家族と精神の健康を保つ方法 1) 精神障害を抱えて生きる人の家族を理解するための理論 2) 精神障害を抱えて生きる人の家族を支援する方法 3. 暮らしの場における精神の健康を支援する方法 1) 家庭 2) 学校 3) 職場 4. 医療の場にいる人々の精神の健康を支援する方法 1) 身体に疾患を持つ人 2) 精神に疾患を持つ人 3) 精神保健医療福祉に従事する人 4) 看護師 5. 地域で暮らす精神障害者を支援する方法 1) 権利擁護 2) 医療 3) 生活 4) 情報 6. 精神障害の個別の課題に特化して支援する方法	30 時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
2. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、精神看護実習の履修条件である。

<科目名> 精神看護方法論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

精神に障害をもつ対象の、病態、疾患、治療、検査から精神障害の特徴を理解し、看護支援をするための基礎を学習する。

<目的> 精神障害の病態、疾患、治療、検査とその看護を理解する。

<目標>

1. 精神に障害をもつ対象の、状態像・精神症状、治療、検査を理解する。
2. 精神に障害をもつ対象の、看護の基礎を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 現症（状態像）と精神症状	14 時間	外部講師
2. おもな精神科疾患・障害の特徴		
3. 精神科における治療		
4. 精神科における検査		
5. おもな精神障害をもつ患者への看護	16 時間	外部講師
6. おもな治療の看護		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎、医学書院
2. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開、医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、精神看護実習の履修条件である。

<科目名> 精神看護技術論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

精神を障害された対象が入院する意味と法を遵守しつつ患者を権利擁護する看護を学ぶ。また、精神を障害された対象の、入院から地域生活までの総合的な看護支援とその実際を学ぶ。支援の際に必要な看護実践のプロセスを他者と共有する力を養う。

<目的> 精神を障害された対象に看護を実践するための基礎を学ぶ

<目標>

1. 精神を障害された対象と入院中の看護を理解する。
2. 精神を障害された対象の健康の段階に合わせた看護支援を理解する。
3. 精神を障害された対象に実践する看護の思考と援助過程を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 精神科病棟に入院している患者への看護 1) 患者にとっての入院治療のメリットとデメリット 2) 精神科病棟と構造 3) 精神保健福祉法にもとづく医療・看護 4) 精神科病棟における事故防止と安全管理	16時間	外部教員
2. 経過別看護 1) 急性期 2) 慢性期 3) 回復期 4) 退院に向けた多職種連携による地域移行支援 5) 地域における生活支援の実際		
3. 精神科に入院する患者の回復を助ける看護技術 1) リフレクションを用いて看護展開する技術 2) 治療的コミュニケーション 3) ICFを活用して看護を導く技術 4) 全体像と導いた看護をプレゼンテーションする技術	14時間	学内教員
4. 精神症状や精神疾患と神経伝達物質		

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト>

1. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
2. 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院

<履修条件>

本科目の単位認定は、精神看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護の基礎Ⅱ

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

暮らしと健康の支え方である「自助」「互助」「共助」「公助」を学習する。そして、自身の取り組み「自助」を計画し、また地域における「互助」を調べて実際に参加し、地域の社会資源や地域のつながる力に気づくための学習をする。そして、地域での暮らしと健康を支えるのはどのような人であるのか、またどのような機関が暮らしと健康に関わっているのかを学習する。

<目的> 地域での暮らしと健康を支える「自助」「互助」「共助」「公助」を理解し、多様な支え方を学ぶことで、地域のつながる力に気づく

<目標>

1. 暮らしと健康を支える「自助」「互助」「共助」「公助」を理解する。
2. 地域での暮らしと健康につながる「自助」に取り組む。
3. 地域での暮らしと健康を支える「互助」に参加する。
4. 地域における多様な「自助」と「互助」から、地域のつながる力に気づく。
5. 地域での暮らしと健康にかかわる人々や機関を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時配	担当
1. 暮らしと健康の支え方 2. 暮らしと健康を支える「自助」 3. 暮らしと健康を支える「互助」 4. 暮らしと健康を支える「共助」「公助」 5. 暮らしと健康にかかわる人々や機関	15時間	学内教員

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メデイカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護概論

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

人口構造や疾病構造の変化、家族の変遷、法律や政策の動向などから地域で暮らす人々が看護の対象であることを理解し、看護を展開する上で基本となる地域・在宅看護の概念を学習する。

<目的> 地域・在宅看護の概要を学ぶ

<目標>

1. 地域・在宅看護の背景を理解する。
2. 地域・在宅看護の基盤を理解する。
3. 地域・在宅看護の基本理念を理解する。
4. 地域・在宅看護における倫理を理解する。
5. 地域・在宅看護の動向と今後の発展について関心を示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 地域・在宅看護の背景 2. 地域・在宅看護の基盤 3. 地域・在宅看護の基本理念 4. 地域・在宅看護における倫理 5. 地域・在宅看護の動向と今後の発展	15時間	学内教員

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メデイカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護方法論 I

<単位・時間> 1 単位・30 時間

<科目の概要>

地域・在宅看護を支える制度・法律・施策にはどのようなものがあるのか、そして、制度・法律・施策をふまえた地域包括ケアとはどのようなものなのかを知り、地域包括ケアを支持するケアマネジメントの在り方や看護過程の展開といった支援の基本について学習する。

<目的> 地域包括ケアを支持する仕組みと支援の基本について学ぶ。

<目標>

1. 地域・在宅看護を支える制度・法律・施策を理解する。
2. 地域包括ケアについて理解する。
3. 地域包括ケアを支持するケアマネジメントを理解する。
4. 地域・在宅看護における家族支援について理解する。
5. 地域・在宅看護過程の展開について理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 地域・在宅看護を支える制度・法律・施策	4 時間	外部講師
2. 地域包括ケアの実際	6 時間	学内教員
3. ケアマネジメント	2 時間	外部講師
1) 在宅ケアにおける社会資源		
2) ケアマネジメントの定義と目的		
3) ケアマネジメントの展開		
4) チームケアと多職種連携	2 時間	外部講師
5) 継続看護		
6) 退院支援		
7) 介護保険制度におけるケアマネジメント	4 時間	外部講師
8) 障害者医療福祉制度におけるケアマネジメント		
4. 地域・在宅看護における家族支援	8 時間	学内教員
5. 地域・在宅看護過程の展開		

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メデイカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護方法論Ⅱ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

訪問看護の制度と機能とは何かを学習し、それをふまえた地域・在宅看護における援助技術、安全と健康危機管理について学習する。

<目的> 訪問看護の制度と機能、地域・在宅看護における援助技術、安全と健康危機管理を学ぶ。

<目標>

1. 訪問看護の制度と機能を理解する。
2. 地域・在宅看護における援助技術を理解する。
3. 地域・在宅看護における安全と健康危機管理を理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 訪問看護の制度と機能 1) 訪問看護の目的・機能・特徴 2) 訪問看護の実施形態 3) 訪問看護ステーションに関する基準 4) 訪問看護に関する制度 5) 訪問看護のしくみ、質の保証	8時間	学内教員
2. 地域・在宅看護における援助技術 1) 生活を支えるコミュニケーション技術 2) 生活を支える生活ケアの援助技術 3) 生活を支える医療的ケアの援助技術 ①褥瘡予防・褥瘡処置 ②在宅経管栄養法 ③輸液 ④在宅中心静脈栄養法 ⑤膀胱留置カテーテル ⑥在宅人工呼吸療法 ⑦非侵襲的陽圧換気療法 ⑧在宅酸素療法 ⑨ストーマ管理 ⑩服薬管理 ⑪疼痛緩和	16時間	学内教員
3. 地域・在宅看護における安全と健康危機管理 1) 在宅医療におけるリスクの特徴 2) 日常生活における安全管理	4時間	学内教員
3) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 4) 看護師自身の安全管理	2時間	外部講師

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メデイカ出版
2. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術、メデイカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。

<科目名> 地域・在宅看護方法論Ⅲ

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

地域で暮らすあらゆる健康状態や発達段階にある対象の状態に応じて必要な看護とはどのようなものかを知り、また、多職種との連携によって提供されるケアのありようを学習する。

<目的> 地域で暮らす様々な状態にある対象に応じて必要な看護と多職種との連携によって提供されるケアを学ぶ。

<目標>

1. 地域で暮らすあらゆる健康状態や発達段階にある対象のニーズを理解する。
2. 地域で暮らす対象の状態に応じた看護を理解する。
3. 地域で暮らす対象の状態に応じて提供される多職種との連携によるケアを理解する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 地域・在宅看護と健康段階、発達段階	2時間	学内教員
2. 地域・在宅看護と認知症療養者・家族	4時間	外部講師
3. 地域・在宅看護と障害者・家族	4時間	学内教員
4. 地域・在宅看護と重度心身障害児・家族	4時間	外部講師
5. 地域・在宅看護と難病の療養者・家族	6時間	外部講師
6. 地域・在宅看護と終末期のがん療養者・家族	6時間	外部講師
7. 地域・在宅看護と自己管理を続けている療養者・家族	4時間	外部講師

<評価> 課題提出、筆記試験

<テキスト>

1. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア、メディカ出版
2. 臺有桂ら：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術、メディカ出版

<履修条件>

本科目の単位認定は、地域・在宅看護実習の履修条件である。



<科目名> 医療安全

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

医療現場で起こりやすい事故、医療事故の現状から事故の発生する背景や要因を学び、医療事故を予防するための考え方と方策を学習する。また、看護師として医療安全を確保する責務を認識する。

<目的> 臨床現場での医療安全の必要性と医療安全における看護師の役割を学ぶ。

<目標>

1. 医療安全の意義を理解する。
2. 医療安全と看護師の責務を関連づける。
3. 医療事故防止に必要な知識をもとに、事故分析の必要性を理解する。
4. 看護業務上の事故要因の分析に基づいたリスク感性を高める必要性に気づきを示す。
5. 誰もが医療事故の当事者になる恐れがあることを認識する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 医療安全の基礎的知識 2. 看護師の責務 3. 組織としての対策 4. 医療事故防止に必要な知識・判断 5. 医療事故後の対応 6. リスク感性を磨く 演習：KYT（危険予知トレーニング） 7. 感染管理 8. 保健医療福祉施設における暴力対策	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 小澤かおり編：看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全、メジカルフレンド社
2. 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]看護学概論、医学書院

<履修条件>

1. 本科目の単位認定は、成人・老年、老年、小児、母性、精神、地域・在宅看護実習、統合実習の履修条件である。

<科目名> 災害・国際看護

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

世界では、グローバル化による健康への影響、地球環境全体での自然災害などが問題となっている。災害看護では、災害による健康被害を理解し、被災者への的確な支援につなげるための基礎的知識を学習する。また、国際看護では、広域的に発生している健康問題や生活への影響を理解し、多様な文化と価値観をもつ人々への看護を学習する。

<目的>

1. 自然災害による健康や生活への影響と看護の役割を学ぶ。
2. グローバル化による健康・生活への影響から世界の看護の動向を学ぶ。

<目標>

1. 災害医療の特徴を理解する。
2. 災害看護の特徴を理解する。
3. 災害各期における看護の役割、看護活動を理解する。
4. 諸外国で生じている健康問題の現状を理解する。
5. 我が国のグローバル化による健康問題を理解する。
6. 対象の文化・価値観を考慮した看護の必要性に気づく。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 災害医療の基礎知識	11 時間	学内教員
2. 災害看護の基礎知識		
3. 災害看護の活動		
4. 国際看護の基礎知識	4 時間	学内教員
5. 諸外国における保健・医療・福祉の動向		
6. 日本のグローバル化による健康問題		
7. 文化を考慮した看護		
8. 国際看護活動の特徴		

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 浦田喜久子編：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学、医学書院
2. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]、看護学概論、医学書院

<履修条件> なし

### 学習内容（3年次配当科目）

科目名	単位	時間	ページ
看護管理方法論	1	30	90
看護管理技術論	1	30	91
臨床実践	1	15	92
ケーススタディ	1	15	93
成人・老年看護実習Ⅰ	2	90	実習要項
成人・老年看護実習Ⅱ	2	90	実習要項
成人・老年看護実習Ⅲ	2	90	実習要項
成人・老年看護実習Ⅳ	2	90	実習要項
老年看護実習	2	90	実習要項
小児看護実習	2	90	実習要項
母性看護実習	2	90	実習要項
精神看護実習	2	90	実習要項
地域・在宅看護実習	2	90	実習要項
統合実習	2	90	実習要項
合計	24	990	

<科目名> 看護管理方法論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護管理は、看護師が対象によりよい看護を効率的かつ効果的に提供するために必要な活動である。組織の一員として、多様な状況において看護の目的を果たすために必要な看護管理の視点を学び、看護の専門領域で学んだ様々な知識・スキルを統合させていく過程を学習する。

<目的>

学生から看護師になる移行時期の専門職社会化を促進し、看護実践を組織や社会制度との関係で考える視点を学ぶ。

<目標>

1. 看護管理の意義を理解する。
2. 看護ケアを提供するための看護職としてのマネジメントを理解する。
3. 看護サービスを提供するための組織としてのマネジメントを理解する。
4. 看護職のキャリアの広がりについて理解する。
5. 看護を取り巻く諸制度と其中で求められる看護師の役割を理解する。
6. 看護を迫及する上で看護理論を学ぶことの必要性を理解する。
7. 看護診断の基礎的知識を理解する。
8. 看護実践における看護管理の必要性に気づきを示す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 看護管理の基礎知識	14 時間	学内教員
2. 看護ケアのマネジメント		
3. 組織としての看護サービスのマネジメント		
4. 看護専門職としての成長	4 時間	学内教員
5. 医療・看護の制度・政策	4 時間	外部講師
6. 看護理論と看護診断	8 時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 小澤かおり編：看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全、メジカルフレンド社
2. 日本看護協会編：看護に活かす基準・指針・ガイドライン集、日本看護協会出版会
3. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]、看護学概論、医学書院

<履修条件>

1. 本科目の開講の時点で、当該年度卒業見込みである。
2. 本科目の受験資格は、統合実習の履修条件である。

<科目名> 看護管理技術論

<単位・時間> 1単位・30時間

<科目の概要>

看護業務で生じやすい多重課題への対応、状況の変化に合わせて常に優先順位を考えながら看護業務を遂行することなど臨床現場に即したマネジメントを学習する。また、看護業務を遂行中で起こりやすい医療事故について具体的な事例を通してリスクセンスを磨き、危険を予測する論理的な思考を学習する。

<目的>

日常的な業務を適切に効率よく遂行するためのマネジメントを臨床現場に即した事例を通して学ぶ。

<目標>

1. 複数患者受け持ち業務を適切な時間の中で実施できるように組み立てる。
2. 多重課題発生時に、その状況に合わせた業務の修正・変更を判断する。
3. 対象に生じやすい危険や事故を予測する。
4. 対象に必要な事故防止を理解する。
5. 看護業務計画の作成・修正・変更を通して看護業務における自身の課題に気づきを示す。
6. 看護の専門職業人として働く自分を想像する。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 業務の組み立てに必要な知識 1) 複数患者を受け持つための情報収集 2) タイムスケジュールの作成 3) 優先順位の決定 4) 各業務に要する時間の把握 5) タイムスケジュールの追加・修正 6) 多重課題発生時の対処と優先順位の修正・変更の判断 2. 複数患者受け持ち看護業務計画の立案 1) 情報収集・整理・アセスメント 2) 一勤務帯の看護業務の組み立て 3) 多重課題発生時の対応 4) 事例患者に合わせた安全管理 3. 看護業務遂行時の危険予測と予測される事故 1) 診療の補助業務 2) 療養上の世話 3) 患者・家族とのコミュニケーション	30時間	学内教員

<評価> 筆記試験・提出課題

<テキスト>

1. 小澤かおり編：看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全、メジカルフレンド社
2. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]、看護学概論、医学書院

<履修条件>

1. 本科目の開講の時点で、当該年度卒業見込みである。
2. 本科目の受験資格は、統合実習の履修条件である。

<科目名> 臨床実践

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

これまでのすべての既習学習を活用し、いま目の前で起きていることを看護師として何を見て何に気づき、何をしたのか、そのとき何を考えていたのか、「看護師のように考える」を体験する。

この体験により看護師がどのように考えて対象に看護実践を行っているのか学習する。

<目的> 既習学習で得た知識を用いて、看護師が臨床場面の対象状況をどのように思考・判断して看護実践を行っているのかを学ぶ。

<目標>

1. 看護師の状況を判断する力を理解する。
2. 看護師の実践を例に倣い、実践には状況判断力が必要であることを体験する。
3. 看護師に必要な状況判断力における自己の課題を把握し、追究する必要性に気づく。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. 「看護師のように考える」 1) 臨床場面で何に視線を向けるか 2) 看護師が「気づいた」ことが意味すること 3) 看護師は何を「察して」いるのか 4) 看護師が「気づき」「察した」ことを「解釈する」 5) 看護師の「反応したこと」の意味 6) 看護師の行動を「省察する」 2. 看護師に必要な状況判断力と自己の課題	15時間	学内教員

<評価> 筆記試験・課題提出

<テキスト> なし

<履修条件>

1. 本科目の開講時の時点で、当該年度卒業見込みである。
2. 本科目の受験資格は、統合実習の履修条件である。

<科目名> ケーススタディ

<単位・時間> 1単位・15時間

<科目の概要>

1つの事例を通してケーススタディの一連の過程を学習する。1つの事例を広く深く具体的、且つ多面的に分析し、自己が体験した看護実践の結果と先駆者の理論、原理とを関係づけることで看護の思考を学習する。

<目的> ケーススタディを通じて研究的視点を養う。

<目標>

1. 看護研究過程を踏まえて自己の看護実践に基づいたケーススタディを実行する。
2. ケーススタディ論文の作成を通して自己の看護実践に対する価値を見出す。
3. 科学的根拠に基づいた看護実践につなげる価値を見出す。

<学習内容・時配・担当>

学 習 内 容	時 配	担 当
1. ケーススタディ論文の作成 1) 計画書の作成 2) 文献検索・文献活用 3) 論文の作成 2. ケーススタディ論文の発表	15時間	学内教員

<評価>

提出課題

1. ケーススタディ計画書・論文の提出
2. ケーススタディ評価表で評価する。(100点)

<テキスト>

1. 坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院

<履修条件>

1. 看護研究の基礎の単位を取得している。
2. 本科目の開講の時点で、当該年度卒業見込みである。